

JUKI

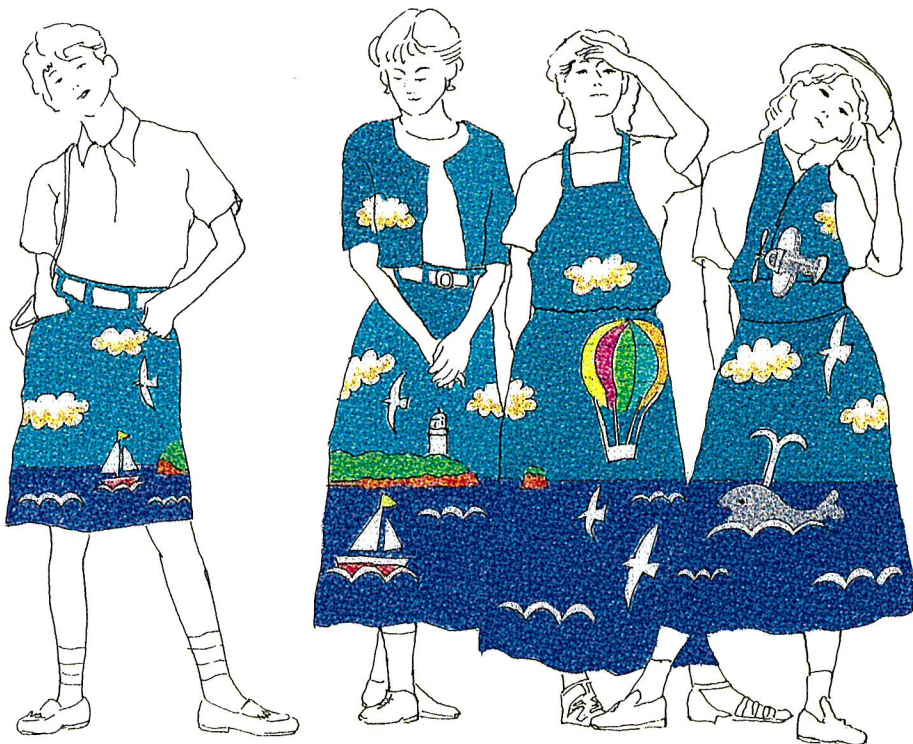
COMPUTER SEWING MACHINE

Super The Misin EX

取扱説明書 (2)

ぬい方のガイド

応用編



▲ 注意

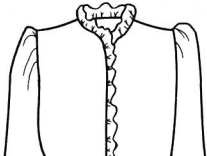
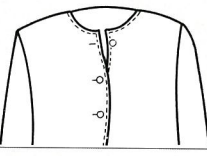

正しく安全にご使用していただくために、ご使用前に「取扱説明書 基本編」をお読みいただき、この応用編をご覧ください。また、いつでもご覧になれますように保管ください。

使い方のガイド **基本編** をマスターできましたら、この **応用編** で多彩なソーイングをお楽しみください。

も く じ

布地に合った糸と針の選び方……………1	・小物づくりのファスナーつけ
いろいろなぬい方のガイド……………2	伸縮強化ぬい(ストレッチステッチ)……………13
直線ぬい……………3・4	ブラインドステッチ(まつりぬい)……………14
・ぬい方向を変えるには	三点ジグザグぬい(エラスチックステッチ)……………15
・厚地のぬい始め	アップリケ……………16
・ぬいしろの重なっている部分のぬい方	・一般アップリケ
・糸切りみぞの使い方	・四方ぬい(横送り)
糸調子を変えるには(手動)……………5	ダーニング(つくろいぬい)……………17
・いせ込みギャザーの寄せ方	キルティング……………18
ジグザグぬい……………6	パッチワーク……………19
筒ぬい(フリーアーム)……………6	ピンタック……………20
自動ボタン穴かがり……………7・8・9	上送りアタッチメントのとりつけ方……………21
・両かん止め穴かがり	別売品のご紹介
・ハトメ穴かがり	コントローラー……………22
・パールぬい	コンシールファスナーつけ……………23
・芯入りボタン穴かがり	三つ巻きぬい……………24
しつけぬい……………9	ぬいしろの重なった部分のボタン穴かがり……………25
裁ち目かがり(縁かがり)……………10	ひもつけ(コーティング)……………26
ファスナーつけ(1)、(2)、(3)……………11・12	
・脇あきファスナーつけ	
・つき合わせファスナーつけ	ボビンケースの調整方法……………26

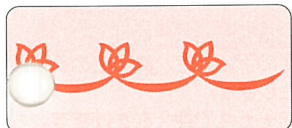
●布地に合った糸と針の選び方

	布 地	ミシン糸	ミシン針
薄地ぬい 	ローン	絹ミシン糸……………80番~100番	(9番)
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸……………90番・100番	11番
	トリコット	化繊ミシン糸……………60~100番	ニット針 11番
	ウール・化繊布	絹ミシン糸……………80番 化繊ミシン糸……………60~100番	11番
普通地ぬい 	普通木綿・化繊布	綿 糸……………50~80番 化繊ミシン糸……………50・60番	11~14番
	薄手ジャージー	絹ミシン糸……………50番 化繊ミシン糸……………50・60番	ニット針 11番
	一般ウール・化繊布	絹ミシン糸……………50番 化繊ミシン糸……………50・60番	11~14番
厚地ぬい 	デニム	綿 糸……………30~50番 化繊ミシン糸……………30~50番	14~16番
	ジャージー	絹ミシン糸……………50番 化繊ミシン糸……………50・60番	ニット針 11~14番
	コート	絹ミシン糸……………50番	11~14番

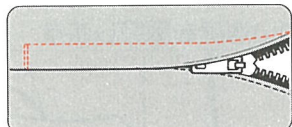
※ニット針(HA×1KN)は目とびを 방지、伸縮性の布地に適します。

直線ぬいから ボタン穴かがり、筒ぬい、模様ぬい、アップリケ、
 ブラインドステッチなど いろいろな ぬい方ができます。

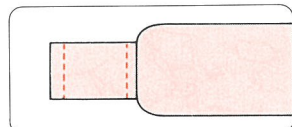
●模様ぬい(基本編15~22ページ)



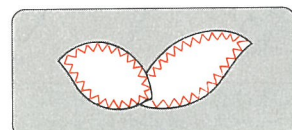
●ファスナーつけ(11~13ページ)



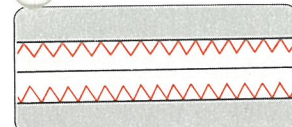
●筒ぬい(フリーアーム)(6ページ)



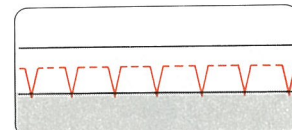
●アップリケ(16ページ)



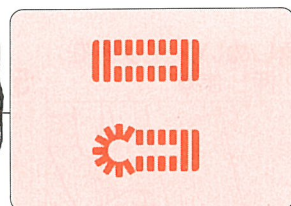
●5目かがり(10ページ)



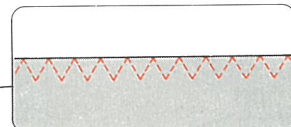
●ブラインドステッチ(14ページ)



●ボタン穴かがり(7~9ページ)



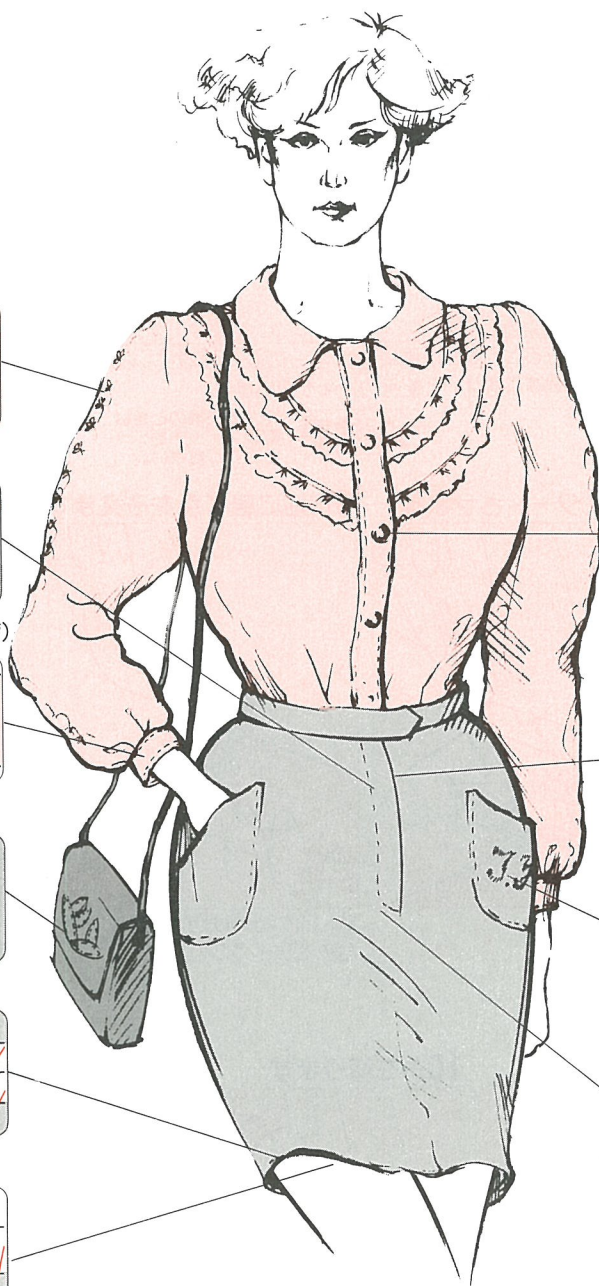
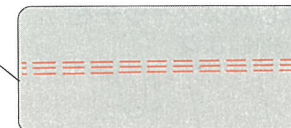
●三点ジグザグぬい(15ページ)

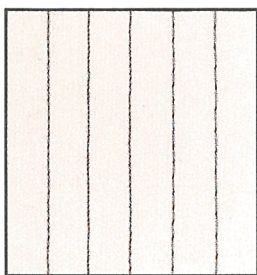


●文字ぬい(基本編17~20ページ)



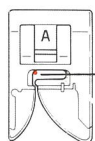
●伸縮強化ぬい(13ページ)





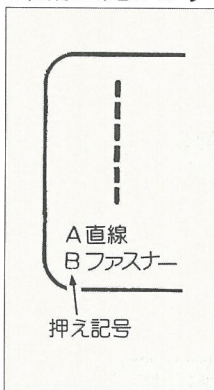
自動のぬい目

直線ぬいはぬいの基本です。布地に適した針と糸を選びましょう。

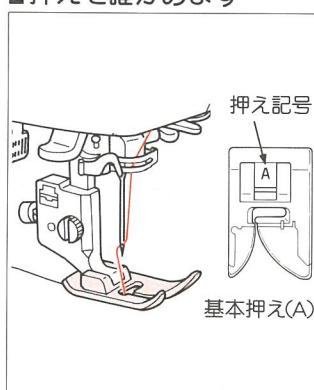


針の落ちる位置

1 模様を選びます



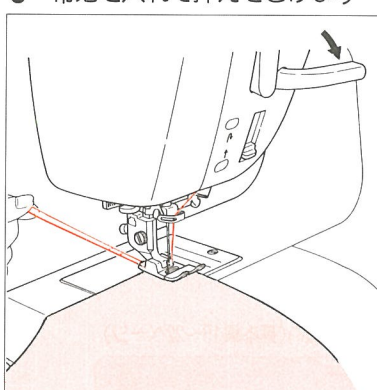
電源を入れると自動的に直線が選ばれます。

2 押え^{だし}を確かめます

模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

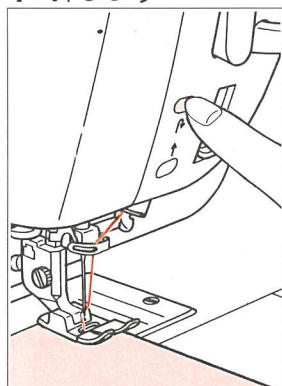
3 返しぬいの分だけ後ろへ布地を入れて押えをさげます



布地を押えの下におき、ぬい始める位置に針をおとします。

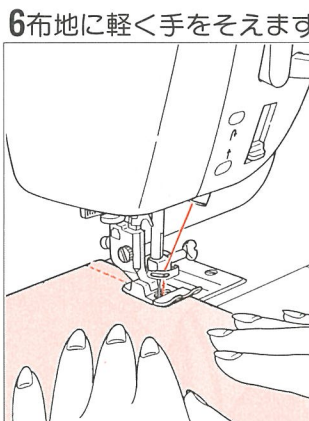
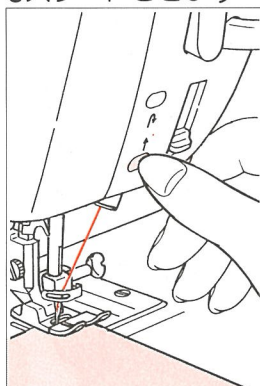
上・下糸をそろえて押えをさげます。

4 返しぬいスイッチを押します



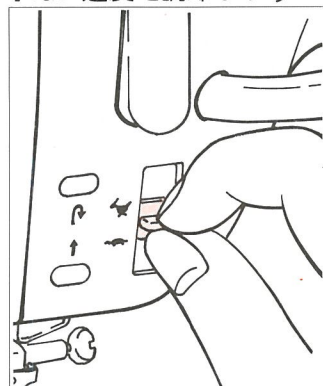
押している間だけ返しぬいをします。

5 スタートさせます



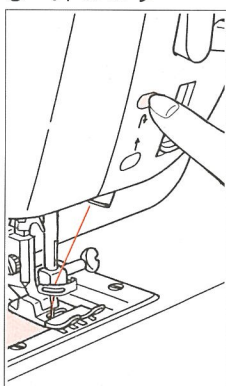
ぬっている間は布地をおりに引っぱらないようにします。

7 ぬい速度を調節します



上にあげるとはやくなります。下にさげるとおそくなります。

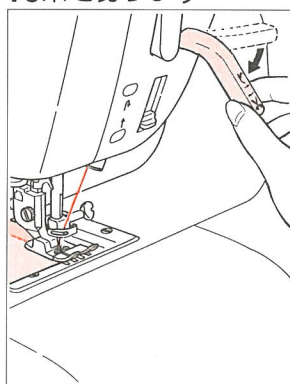
8 返しぬいスイッチを押します



返しぬいをしない場合はスタート・ストップスイッチを再度押してストップさせます。

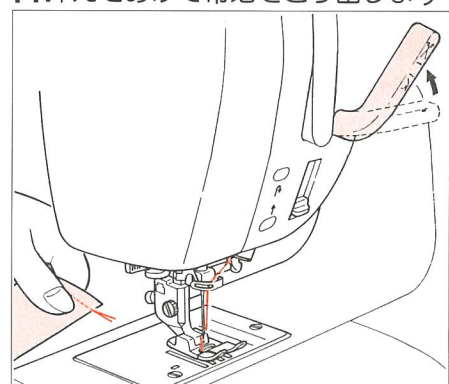
指をはなすとストップします。

10 糸を切ります



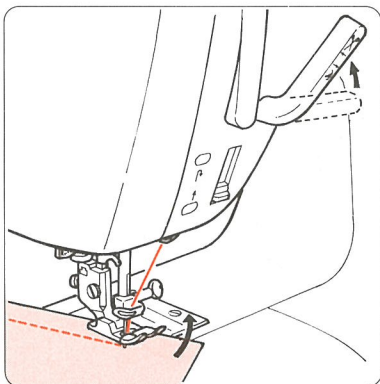
押え上げ・糸切りレバーを針が動くまでいっぱいにさげます

11 押えをあげて布地をとり出します

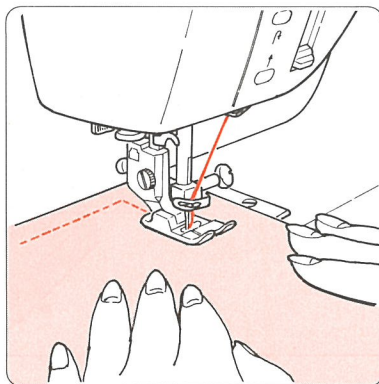


針が完全に止まってから、押え上げ・糸切りレバーを上へあげます。上・下糸が同時に切れて、布地がとり出せます。

●ぬい方向を変えるとき

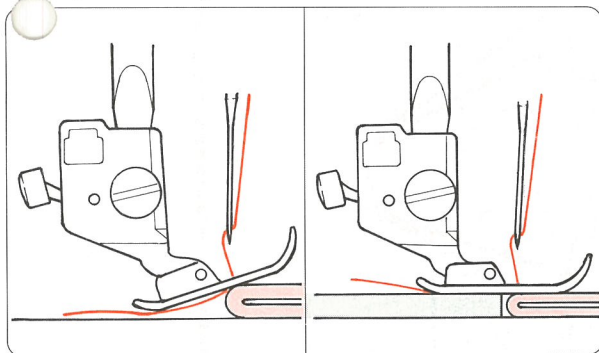


所定の位置でストップさせて押えをあげ、針を軸にして布地を回し、ぬい方向に正しくセットします。



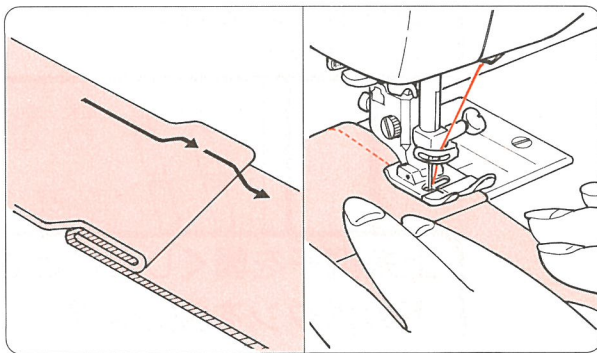
押えをさげてぬい始めます。

●厚地のぬい始め



ぬいしろが重なった布端よりぬう場合は、布端と同じ厚さの厚紙や布を押えの下におりこみますとスムーズにぬうことができます。

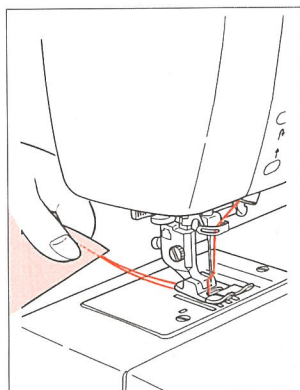
●ぬいしろの重なっている部分のぬい方



ぬいしろの重なりや、極端に厚みに差ができているところは手で少しずつ布の送りを助けながらぬっていきます。ぬいしろを倒した方向にぬいます。

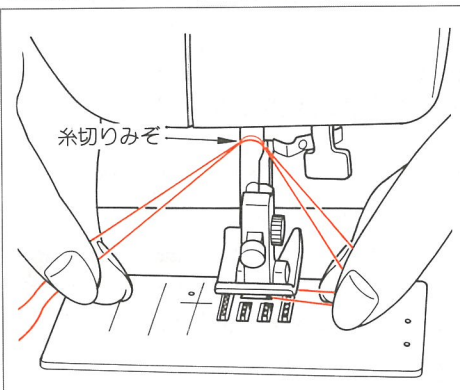
※薄地のぬい始めは上・下糸を進む方向に軽くひっぱりながらゆっくりとぬいます。

1 布地をとり出します



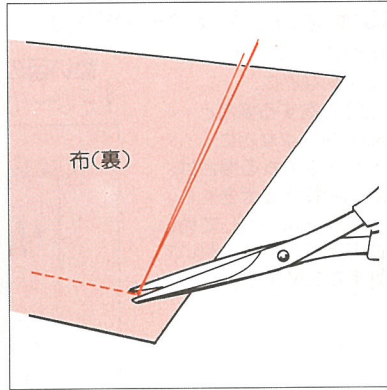
ぬい終わったら、針をあげてから押えをあげて布地を静かに後ろへ引き出します。

2 糸切りみぞで糸を切ります



上糸と下糸をそろえて10センチくらい引き出し、押えの裏側の糸切りみぞで糸を切ります。

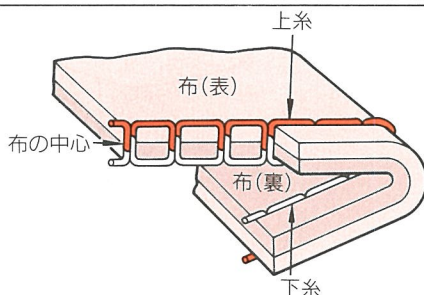
3 布地の裏で糸を結びます



布地の裏側に上糸を引き出し、上糸と下糸を結び、結び目のきわで糸を切ります。

このミシンはコンピューターにより通常のぬいには最適な自動糸調子になっています。
特殊なぬいで糸調子を変えるには……

通常のよい糸調子は
上糸と下糸のからんでいる
ところが布の中心です。



上糸調子を強くしたいとき
上のボタンを押します

(4段階に強くなります)

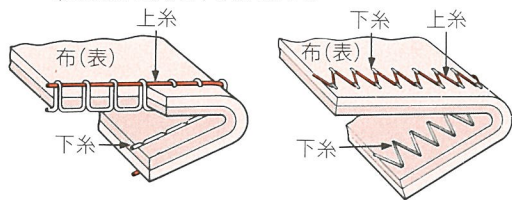
上糸調子を弱くしたいとき
下のボタンを押します

(4段階に弱くなります)



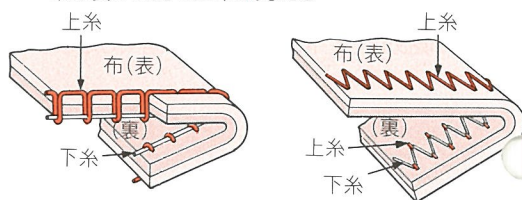
●糸調子を強くしたとき……

布の表から見て下糸が見える



●糸調子を弱くしたとき……

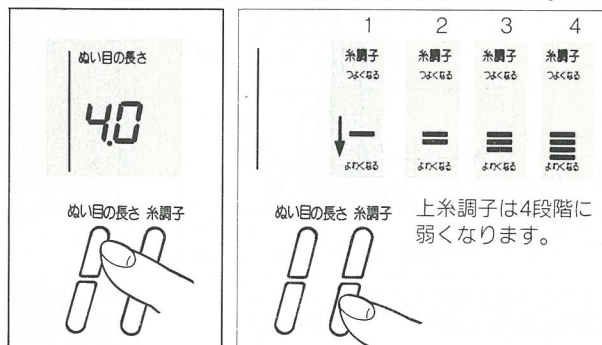
布の裏から見て上糸が見える



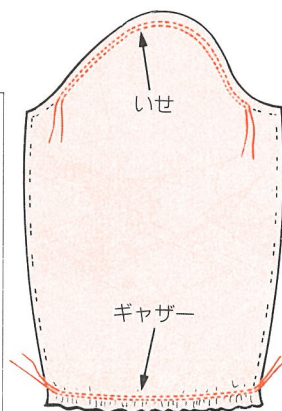
●いせ込み・ギャザーの寄せ方

袖山やスカートのウエストなどに、いせ込みをする場合と袖口やヨークなどにギャザーを入れる場合は、ぬい目の長さを大きくし、上糸調子をよわくしてぬい、そのあと手で下糸を引いて布地をちぢめます。

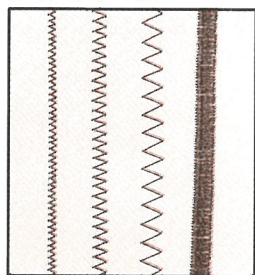
ぬい目の長さを
1 2.0~4.0にします 2 上糸調子を よわくします



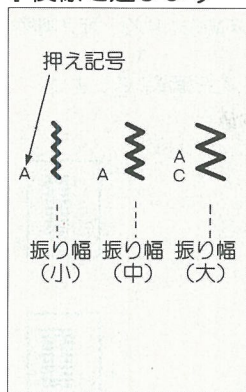
上糸調子は4段階に弱くなります。



ジグザグぬい

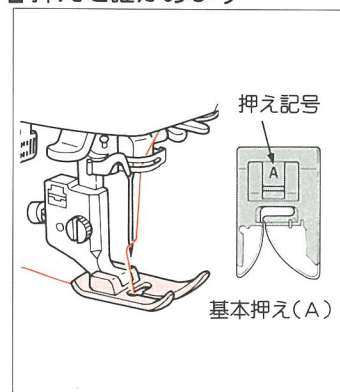


1 模様を選びます



3種類のうち、お好みのジグザグ模様を選びます。

2 押えを確かめます

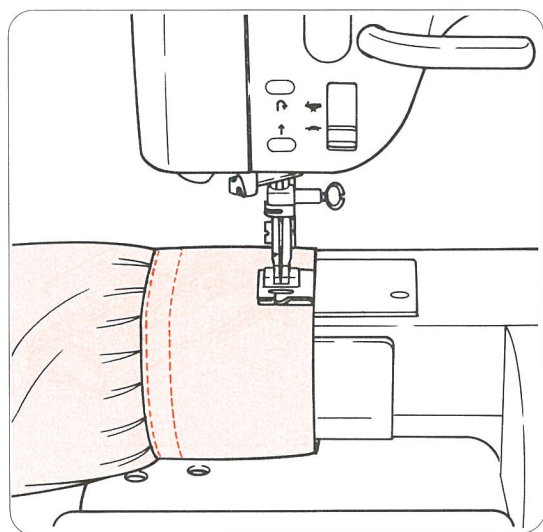


模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

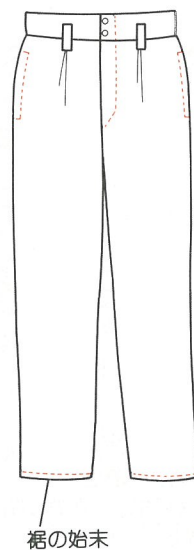
3

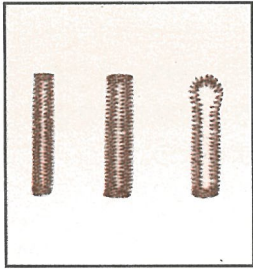
ぬい方は直線ぬいと同じです。直線ぬいを参照しましょう。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



カフスつけ、ノースリーブの見返しつけ、袖口、ズボンの裾など筒型部分をぬうのに大変便利です。





手ぬいでかるとたいへん
手間のかかるボタン穴かがり
が自動的にできます。

- ニット地(伸縮素材)は布地に芯地、又は不織布をはり、押え調節レバーを「よわい」にしてぬいます。
- 必ず ためしぬいをして、正しくぬえることを確認しましょう。



うすい布地で
Yシャツ、ブラウスなどの
小さいボタンに適します。



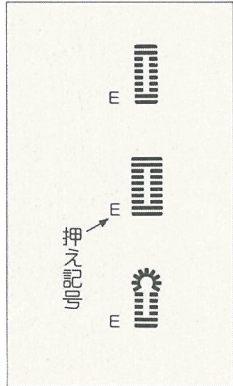
厚い布地で上衣などの
大きいボタンに適します。



上衣などの
大きいボタンに適します。

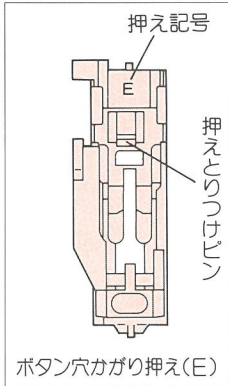
注意 押えの交換のときは
電源スイッチを
切ってください。

1 模様を選びます



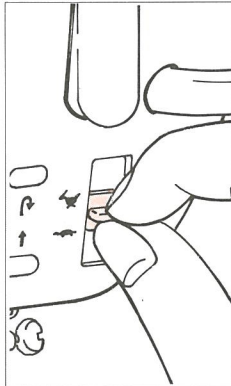
3種類のうち、目的に合
ったボタン穴かがりを選
びます。

2 押え(E)をセットします

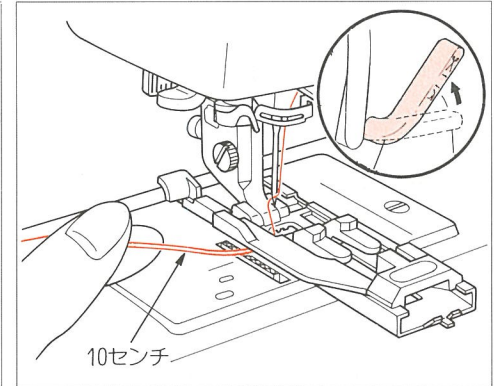


模様選択キーに表示され
ている記号の押えを使
います。
記号のある方を向こう側にしてとりつけます。

3 ぬい速度を決めます

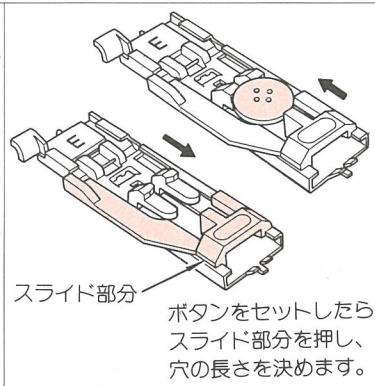
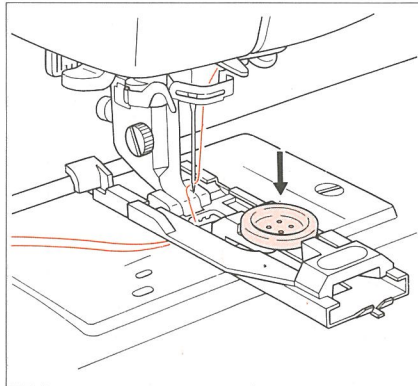


4 糸を横に出します



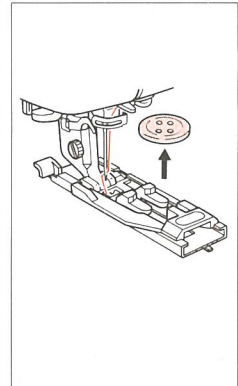
上糸を押えの下へくぐらせませす。

5 一度押えを下げて、ボタンをセットします



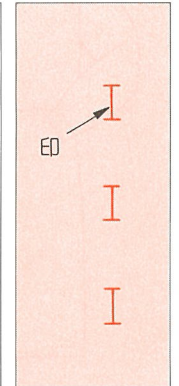
かがり穴の長さはボタンをセットするだけで自動的に決ります。
(押えにボタンがのらないときは、ボタンの直径+ボタンの厚みが、かがり穴の長さ
です)。

6 ボタンを
はずします



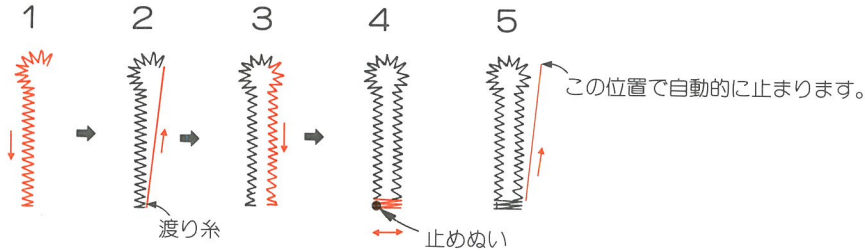
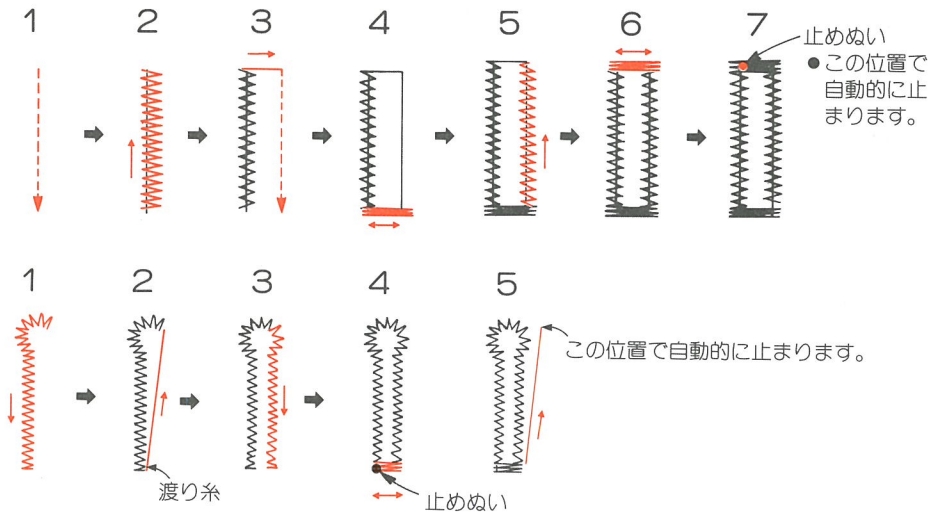
長さが決まりましたら
ボタンをはずします。

7 布地に印を
つけます

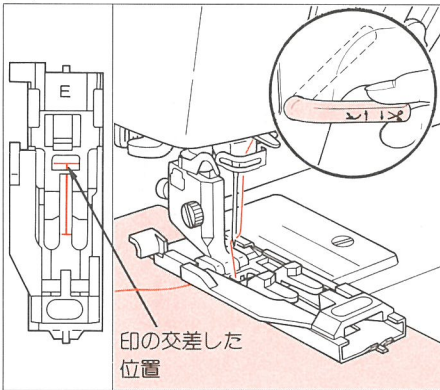


ボタン穴の位置
にチャコでI印
をつけます。

●自動ボタン穴かぎのぬわれる順序

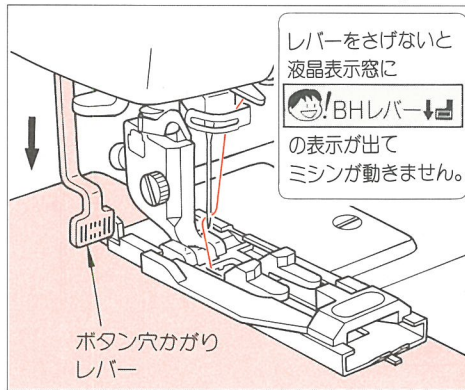


8印に合わせて押えをさげます



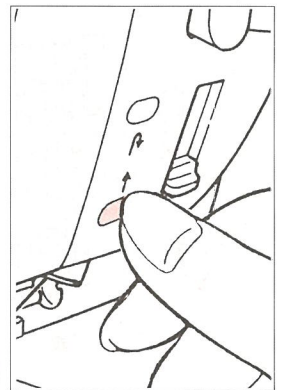
印を押えの針穴の中心に正しくセットして、押えをさげます。

9ボタン穴かぎレバーをさげます



レバーを止まるところまでさげます。

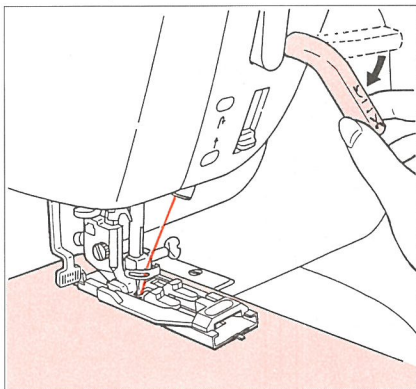
10スタートさせます



スタート・ストップ スイッチを押します。

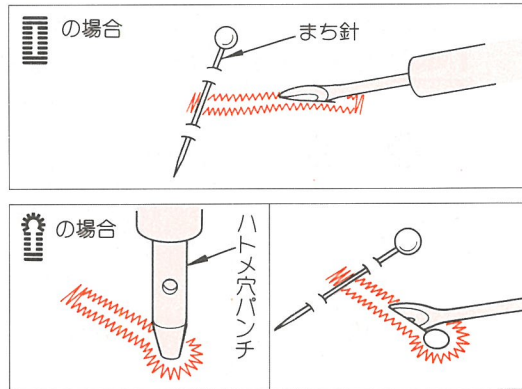
ボタン穴の大きさをまちがえたり、途中で糸切れしたとき、ミシンを止めて模様選択キーをもう一度押しますと、最初からぬうことができます。

11ぬい終わったら糸を切ります



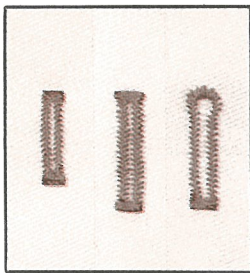
糸切りレバーをさげて糸を切ります。
※ボタン穴の2個目からは布地の次の印に合わせて押えをさげてぬうことができます。

12リッパーで穴をあけます



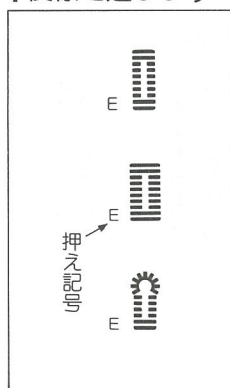
リッパーでぬい糸を切らないように中央の布地を切り開きます
かん止めの所にまち針をさしますと切りすぎがありません。

厚紙などを下に置いて、ハトメ穴パンチで穴をあけてから、リッパーを使ってください。



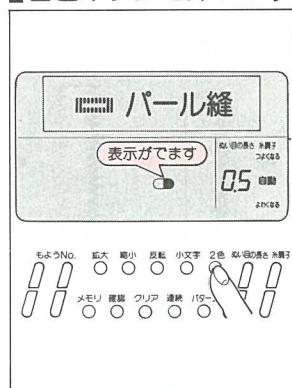
2色ボタンを押すと表布上で上糸と下糸の重なりが山となり、手ぬい風になります。

1 模様を選びます



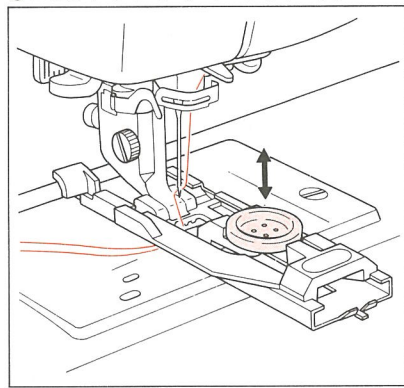
3種類のうち、目的に合ったボタン穴かがりを選びます。

2 2色ボタンを押します

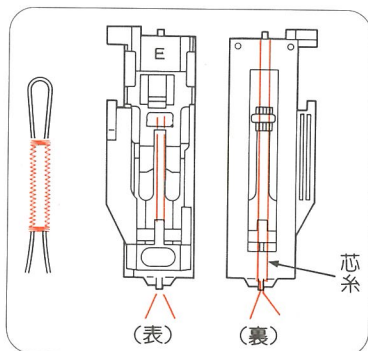


※パールぬいするとき、古い糸など切れやすい糸は、糸調子を自動よりよわめにして下さい。

3 自動ボタン穴かがり(1)と同じです

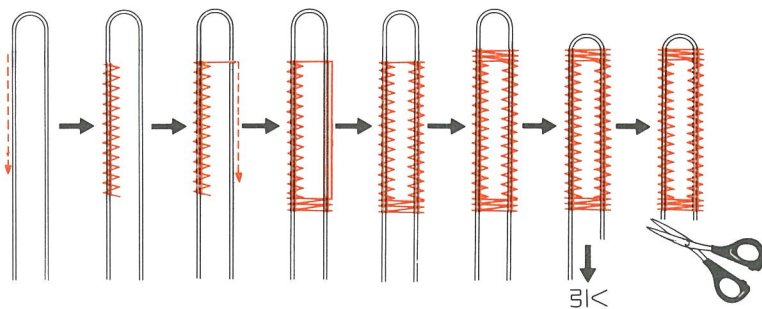


● 芯入りボタン穴かがりの芯のかけ方



芯糸を入れてぬいとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。

芯糸にはレース糸、穴糸などを使用します。



引く
余分な芯糸は裏側に出して結んでから切ります。

芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前側を結びます。そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりをすれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。

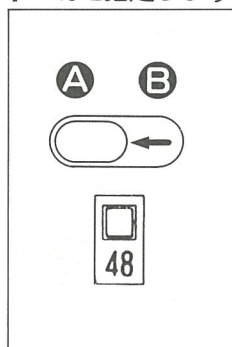
しつけぬい



まつりぬいやファスナーつけなど、このしつけぬいをしますとあとの糸ぬきが簡単にできます。

A面模様の

1 No.48を指定します

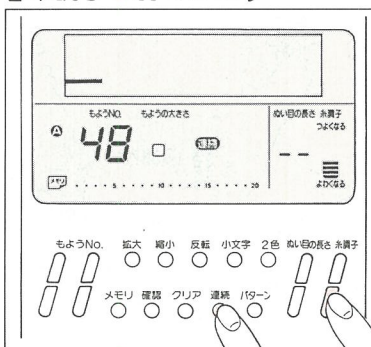


B面模様ではNo.83を指定します。

連続

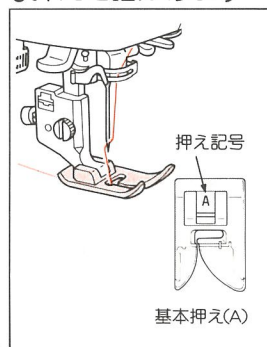
○ボタンを押し、

2 糸調子を弱くします

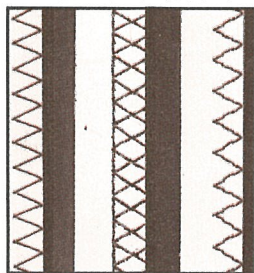


注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

3 押えを確かめます

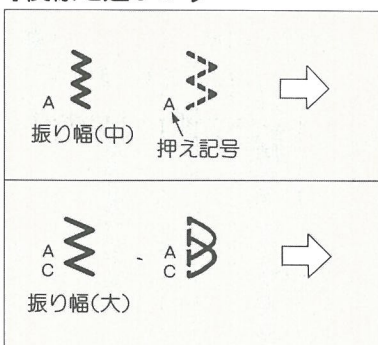


裁ち目かがり(縁かがり)

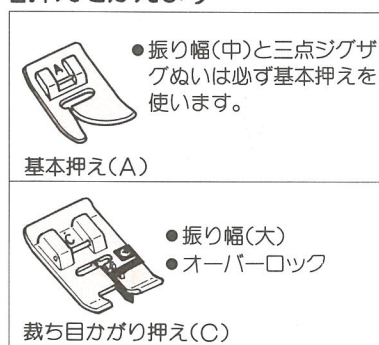


布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために用います。

1 模様を選びます

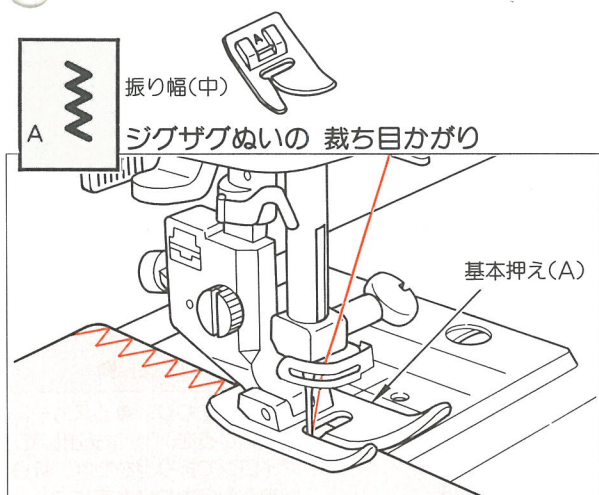


2 押えをかえます

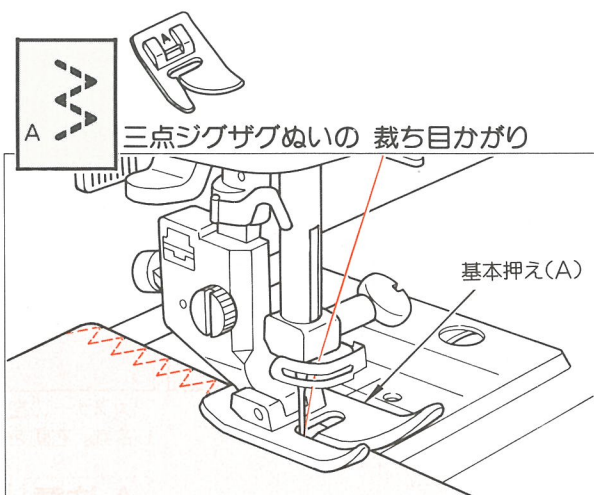


4種類のうち、お好みの模様を選びます。模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

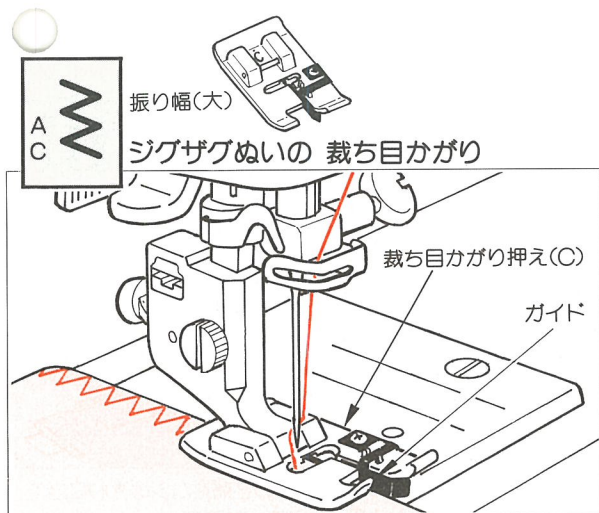
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



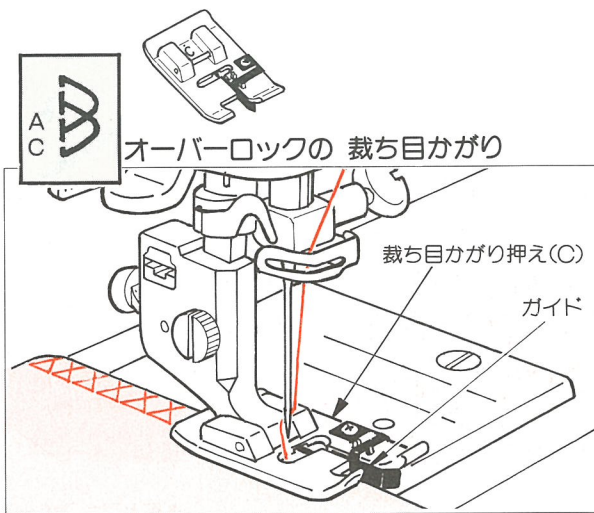
薄地の布で布端が丸まりやすい場合に使います。



ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。

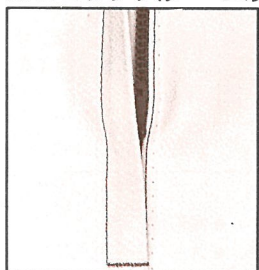


裁ち目のほつれ止めとして広範囲に利用できます。布端を押えのガイドにあてて、ぬいます。



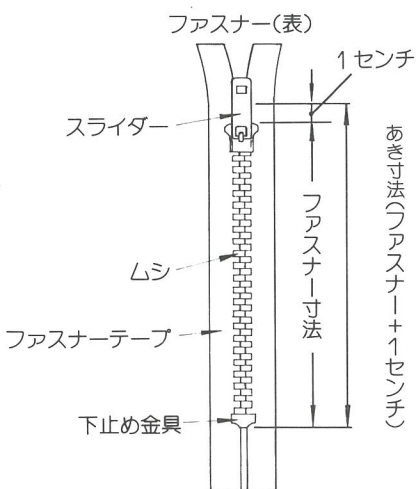
かがりぬいと本ぬいが同時にでき、ほつれやすい布や伸縮性のある布でぬいしろをわらなくてよいもののぬい合わせに適します。

脇あきファスナーつけ

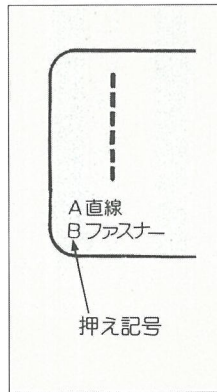
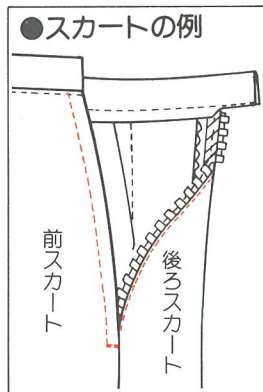


スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。

●ファスナーの名称とあき寸法

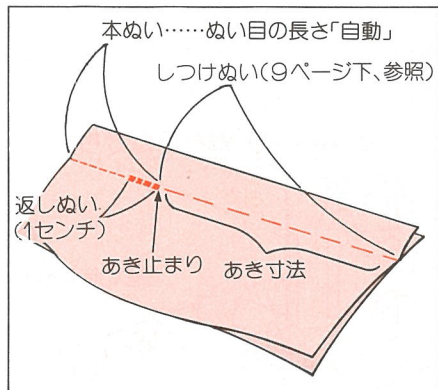


1 模様を選びます

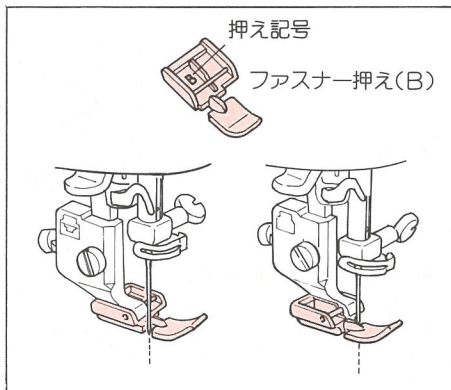


電源を入れると自動的に直線が選ばれます。

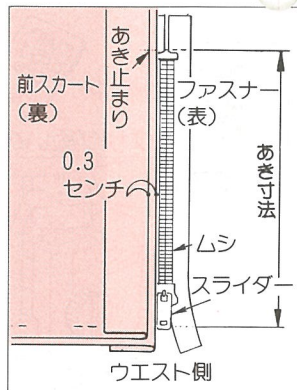
2 基本押え(A)を使ってぬいます



3 ファスナー押え(B)をセットします



4 ぬいしろをわります

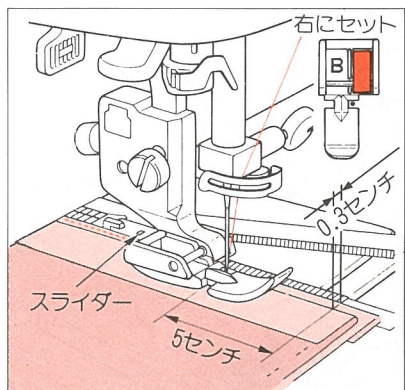


ファスナーの左側をぬうときは押えの右へセットします。右側をぬうときは、左へセットします。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

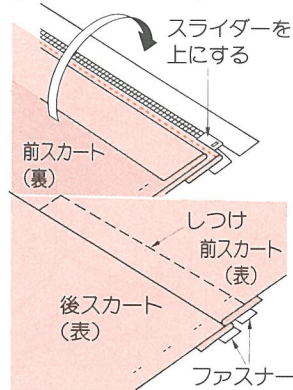
ぬいしろをわり、後ろスカートのぬいしろを0.3センチ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

5 左側をあき止まりからぬいます



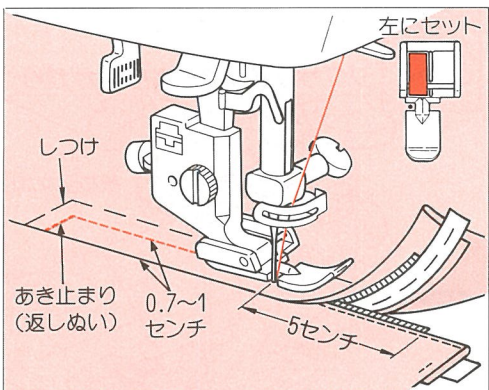
0.3センチ幅の中央をあき止まりからぬいます。手前5センチ位でミシンを止めて、スライダーを向こう側へさげて、端までぬいます。

6 しつけをします



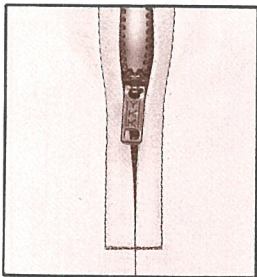
※布とファスナーテープを手の前5センチ位で止めます。

7 右側をぬいます



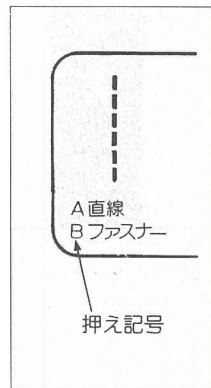
返しぬいしたあと、押えの左端をムシのきわに当て0.7~1センチのミシンをかけます。手前5センチ位のところでしつけぬいのぬい目をほどき、押えの向こう側までスライダーをさげます。そして残りの部分をぬいます。

つき合わせファスナーつけ



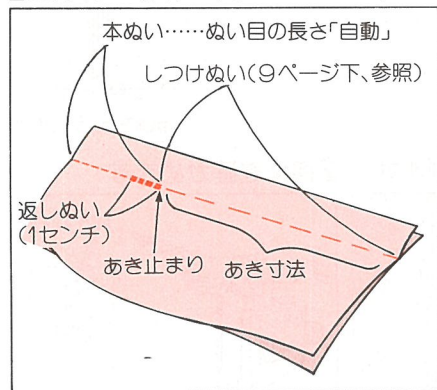
バック、クッション、カバー類に使われるファスナーつけの方法です。

1 模様を選びます

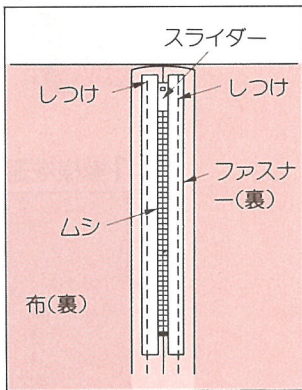


電源を入れると自動的に直線が選ばれます。

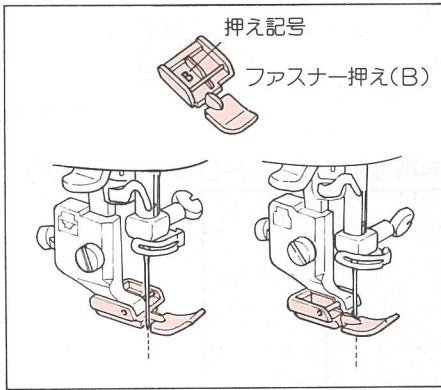
2 基本押え(A)を使ってぬいます



3 ファスナーをしつけます 4 ファスナー押え(B)をセットします



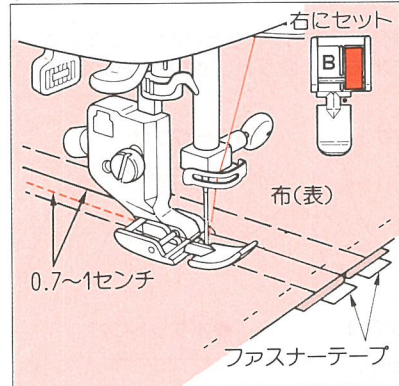
ぬいしろをわり、ぬい目線とファスナーのムシの中心を合わせて表まで手のしつけで止めつけます。スライダーは上に倒します。



ファスナーの左側をぬうときは押えの右へセットします。右側をぬうときは左へセットします。

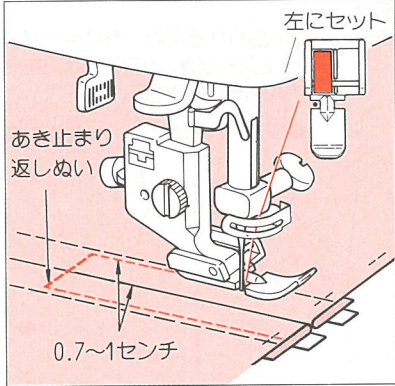
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

6 左側をあき止まりからぬいます



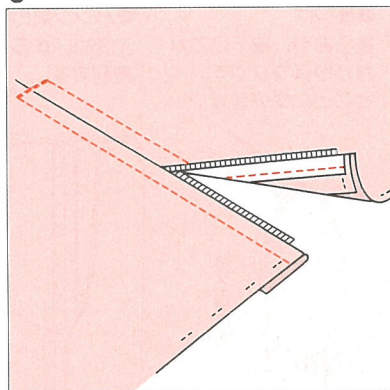
ぬい目から0.7~1センチはなして、あき止まりより上に向かってミシンをかけます。

7 右側をぬいます



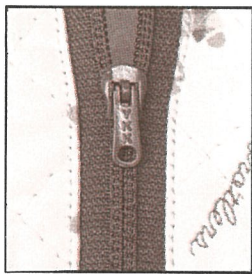
あき止まりを返しぬいで丈夫にぬい止めもう一方も0.7~1センチはなしてミシンをかけます。

8

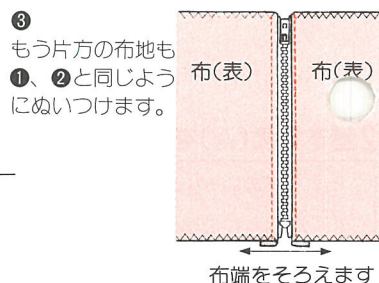
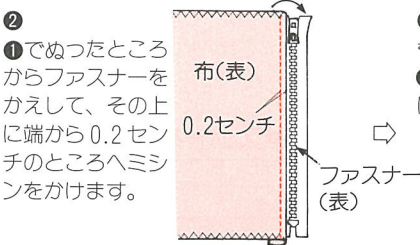
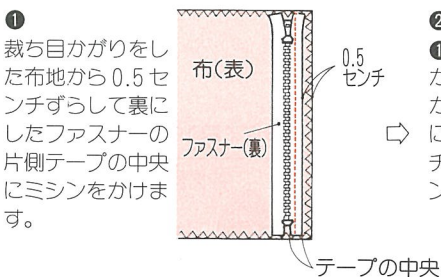


しつけぬいの部分のみほどこきます。

小物づくりのファスナーつけ

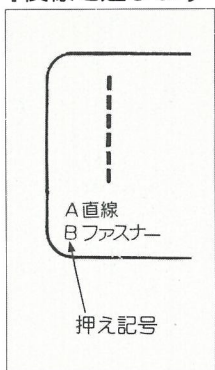


ファスナーテープが見えるつけ方でポーチャやバックに使われる方法です



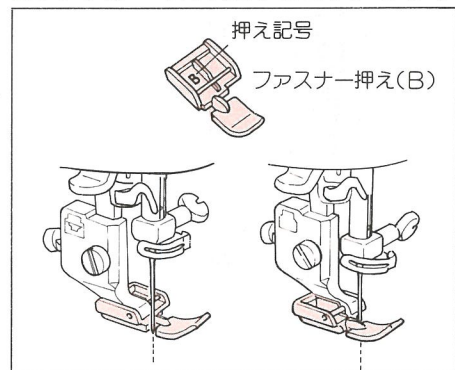
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 模様を選びます



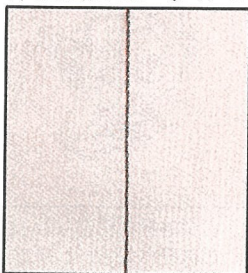
電源を入れると自動的に直線が選ばれます。

2 ファスナー押え(B)をセットします



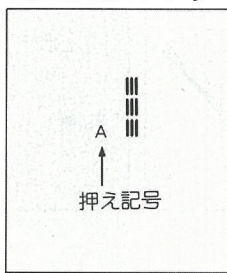
ファスナーの左側をぬうときは押えの右へセットします。右側をぬうときは左へセットします。

伸縮強化ぬい(ストレッチステッチ)



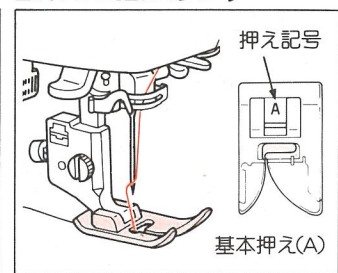
伸縮性のある布地や、力がかかってほつれやすい部分などに使うとぬい目がしっかりします。

1 模様を選びます



模様選択キーを押すと液晶表示窓に模様が表示されます。

2 押えを確かめます



模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

●袖つけ
後ろ袖や、袖下に力がかかりほつれやすいところに使います。

●パンツ類の股ぐり
二度ぬいするときに便利です。

ぬい合わせる布の一方にギャザーやタック、プリーツなどが入っているとき(ウエストはぎ、カフすつけ、ヨークつけなど)使くと、ぬい目がしっかりとできあがります。

●ウエストはぎ
ギャザー

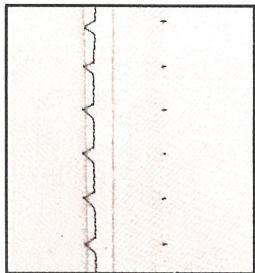
●カフすつけ

●ヨークつけ

●バック類
バックポケット

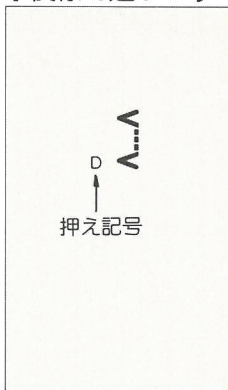
●ポケットつけ
バックポケット

まつりぬい(ブラインドステッチ)



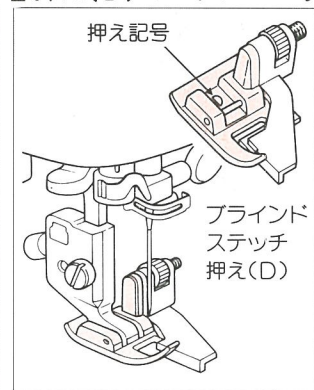
スカートやワンピースなどのすそのまつりがかんたんにできます。

1 模様を選びます



模様選択キーを押すと液晶表示窓に模様が表示されます。

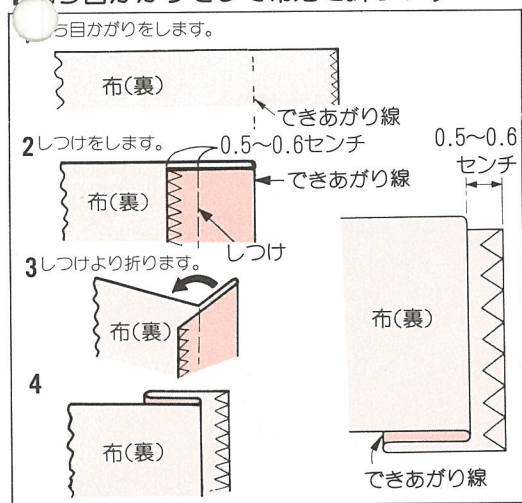
2 押え(D)をセットします



模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

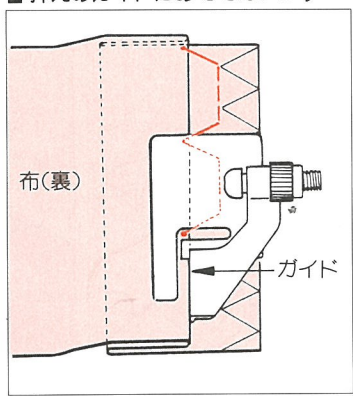
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 裁ち目かがりをして布地を折ります



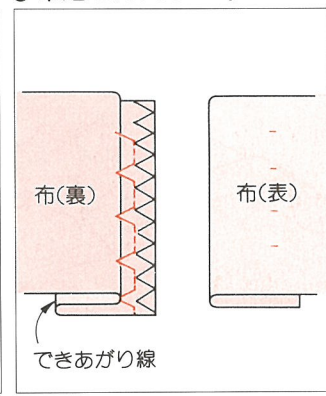
・裁ち目かがりは10ページ参照
・しつけぬいは9ページ下、参照

2 折り山に 押えのガイドにあててぬいます



押えのガイドを折り山にピッタリあててぬいます。

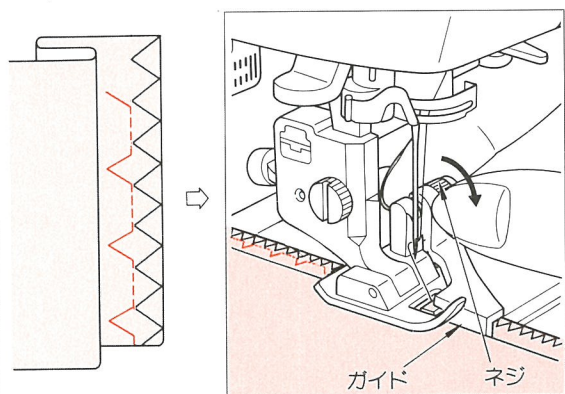
3 布地をかえします



布地をかえして、できあがりに整えます。

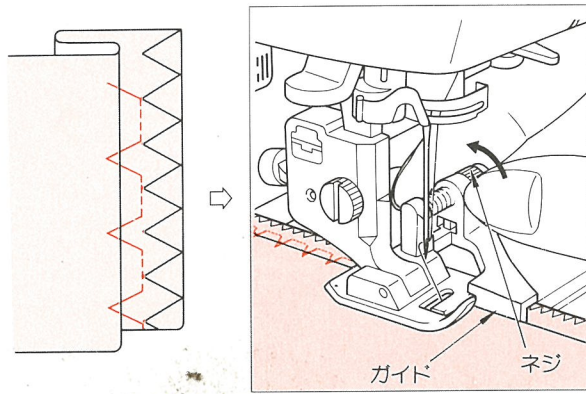
●ブラインド ステッチ押えのガイド調節方法

■ 折り山にぬい目がかからない場合



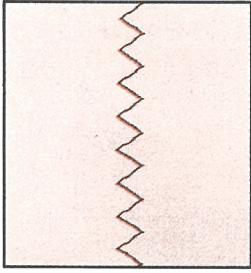
ネジを手前に回しますとガイドは右へずれます。ずれたガイドに布の折り山をピッタリつけます。

■ 折り山にぬい目がかかりすぎた場合



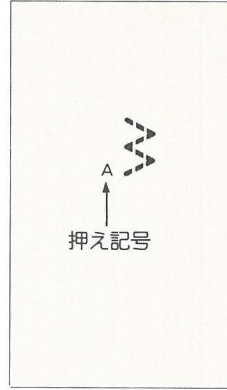
ネジを向こう側に回しますとガイドが左へずれます。ずれたガイドに布の折り山をピッタリつけます。

三点ジグザグ

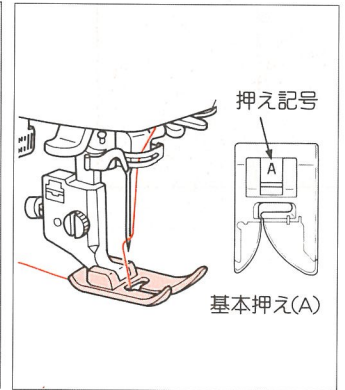


ゴムテープ、のび止めテープ、インサイドベルトを布地にぬい止める場合や伸縮素材の裁ち目かがりなどに、三点ジグザグぬいを使います。

1 模様を選びます



2 押えを確かめます

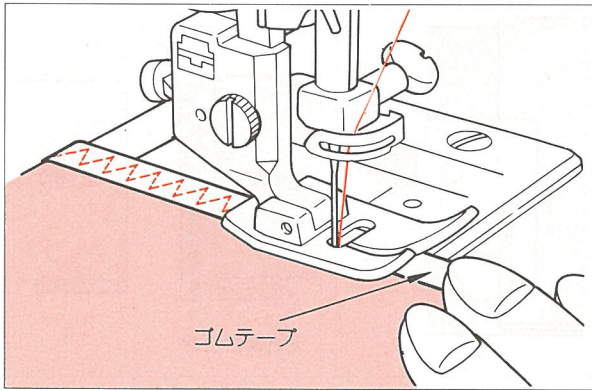


模様選択キーを押すと液晶表示窓に模様が表示されます。

模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

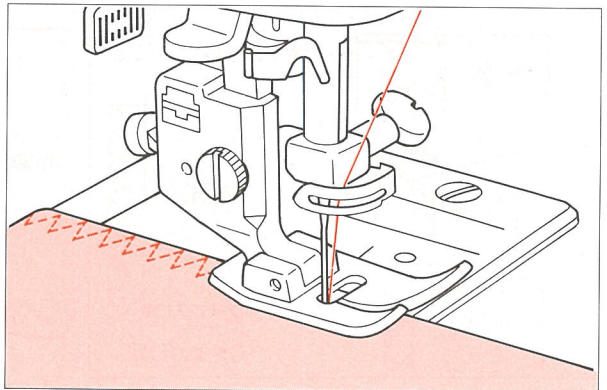
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

● 三点ジグザグのテープつけ



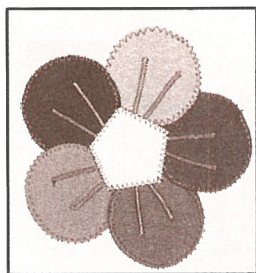
押え調節レバーを「よわい」にし、ゴムテープは前後にのばしながらぬいます。

● 三点ジグザグの裁ち目かがり



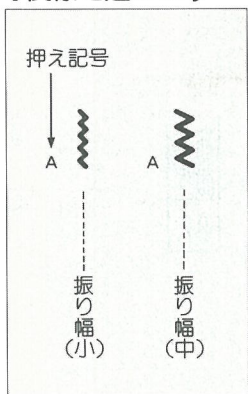
ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。布端に針が落ちるようにぬいます。

アップリケ(1)



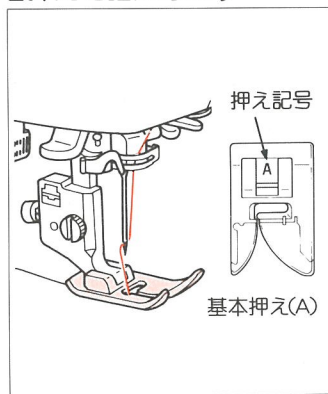
市販のアップリケ布や、自分で切り抜いたアップリケ布を丈夫に、簡単にぬいつけられます。

1 模様を選びます



2種類のうち、お好みのジグザグ模様を選びます。

2 押えを確かめます

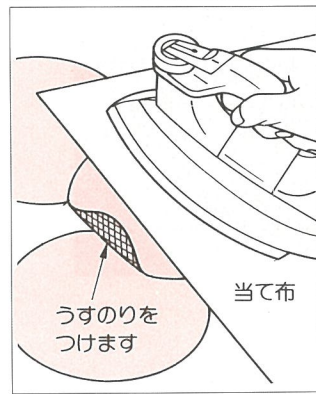


模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

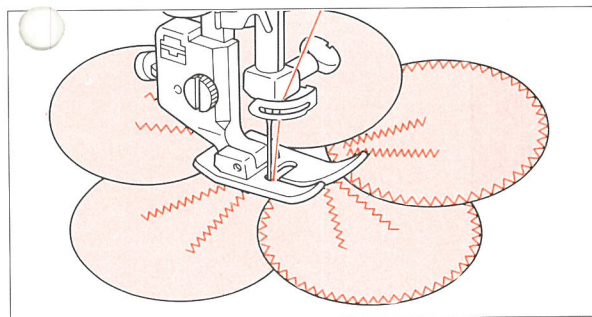
! 注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

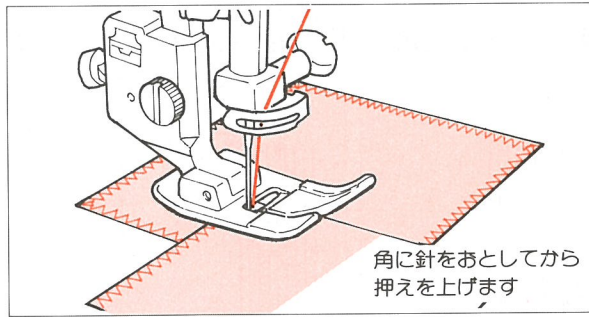
3 アップリケ布を止めます



アップリケ布を正確にのりづけ、またはしつけ止めして当て布をあてて かるくアイロンで押えます。

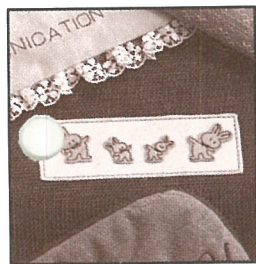


アップリケの布端を裁ち目かがりと同じ要領で、ジグザグぬいでぬいつけます。ぬい始めと終りは返しぬいスイッチを押して止めぬいをします。カーブの強いものは振り幅(小)のジグザグ模様を選びます。



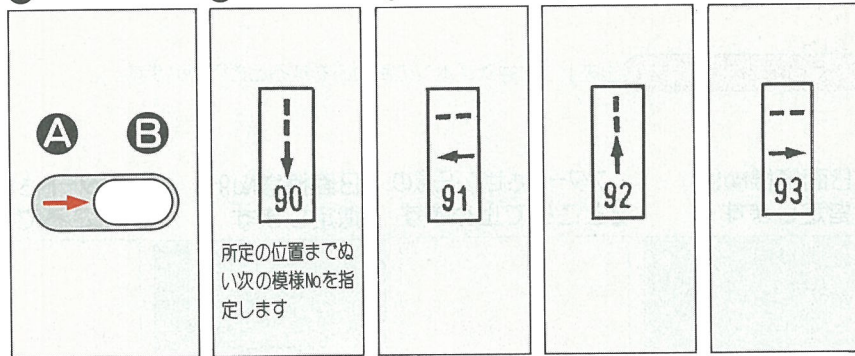
急角度のところや、布地の方向を変えるときは、アップリケの布端に針をおとした状態で方向を変えるようにします。

アップリケ(2)

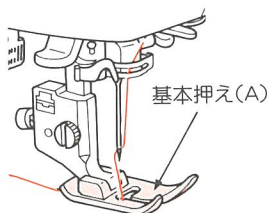


出来上がった袖やスボンの筒にワッペンをつける場合に使います。

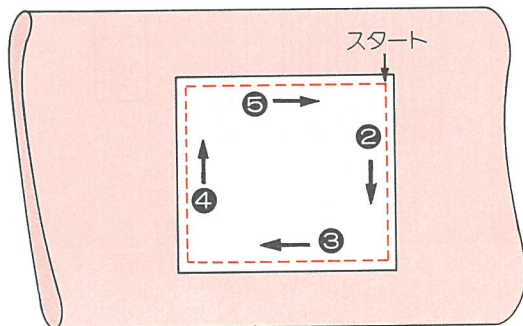
B面模様①切替えます。②模様No90を指定します。③模様No91を指定します。④模様No92を指定します。⑤模様No93を指定します。



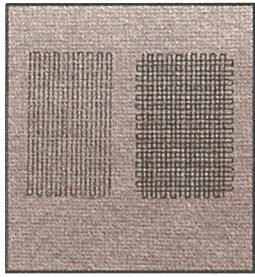
所定の位置までぬい次の模様Noを指定します



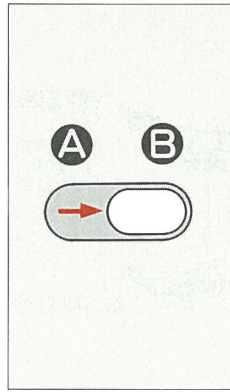
※押えを上げずにぬうことができます。



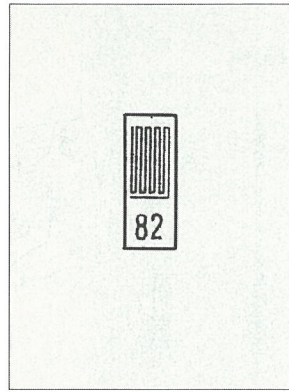
ターニング(つくりぬい)



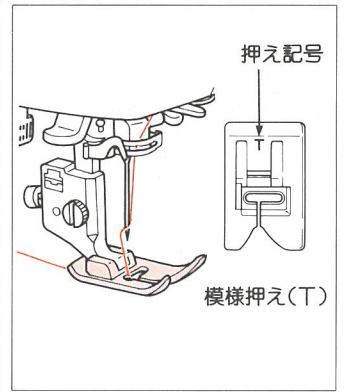
1 B面模様に変更します



2 模様No82を指定します



3 模様押え(T)をセットします



※ぬい目模様の形の調整方法は基本編22ページをご参照ください。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

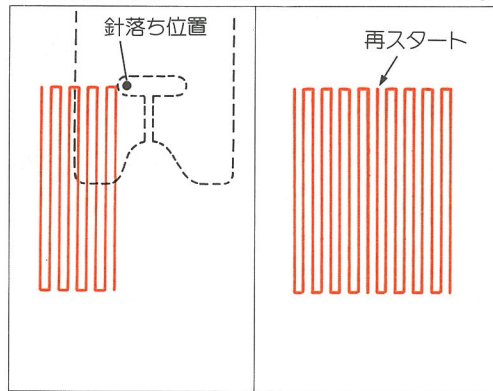
さらに幅広くぬう場合は

4 スタートさせます



1つの模様をぬって止めます。

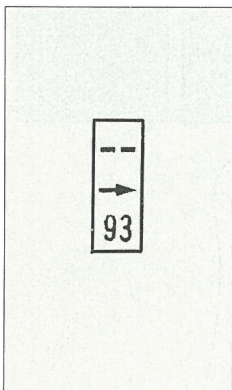
5 針落ち位置を決めてスタートさせます



横送りを使う場合 出来上がった袖やズボンの筒ぬいをするときに使います。

B面模様No93

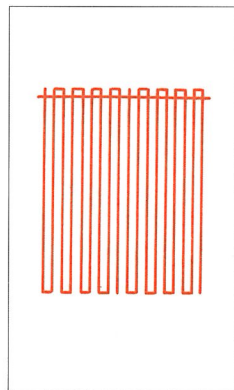
1 指定します



右送りを指定します

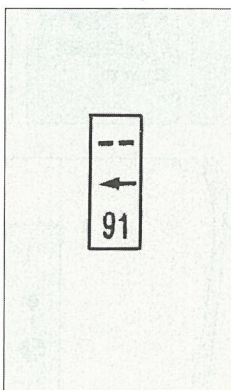
スタートさせて、任意の

2 ところで止めます



B面模様No91

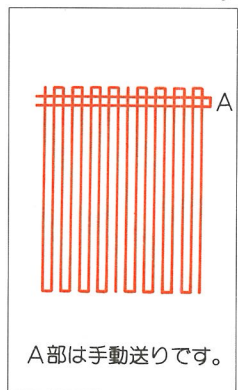
3 指定します



左送りを指定します

スタートさせて任意の

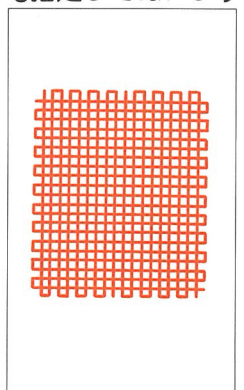
4 ところで止めます



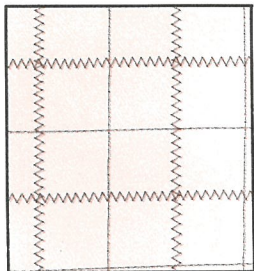
A部は手動送りです。

図1と3を交互に

5 指定してぬいます

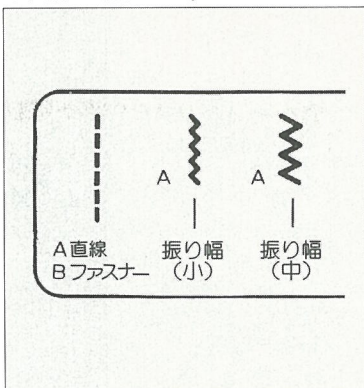


キルティング



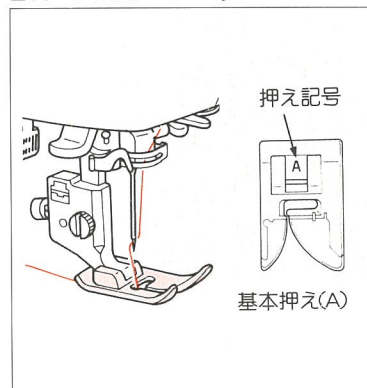
2枚の布地を合わせ、平行にぬい目を入れていく方法で、布地の間に綿などを入れると、防寒や、装飾に役立ちます。

1 模様を選びます



直線、ジグザグ模様などお好みの模様を選びます。

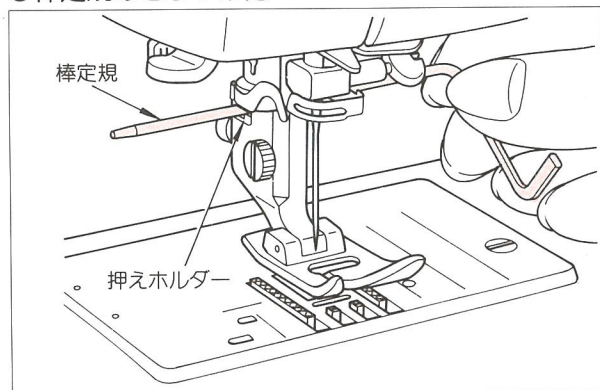
2 押えを確かめます



模様選択キーに表示されている記号の押えを使います。

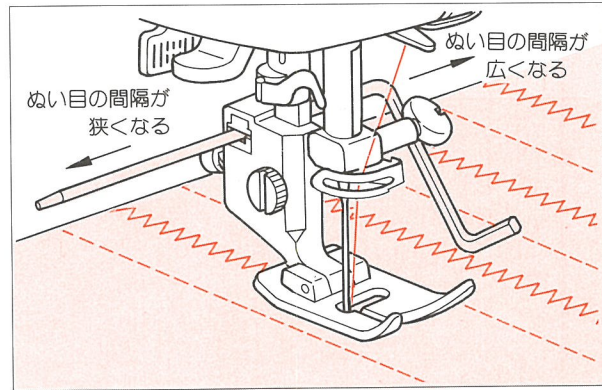
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

● 棒定規のとりつけ方



押えホルダーのみぞに棒定規を差し込みます。

● ぬい方



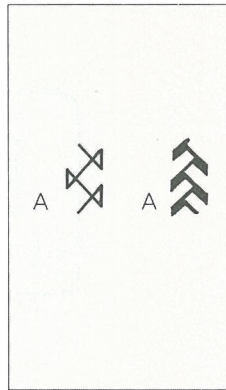
棒定規の先でぬったぬい目をたどりながらぬいます。左右の間隔が自由に調節できます。

パッチワーク



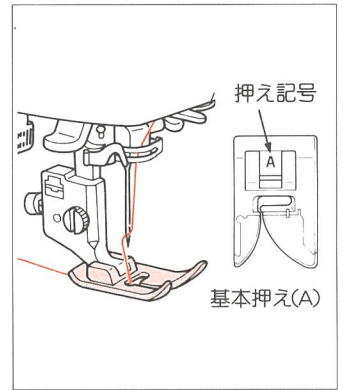
模様ぬいを使っていろいろな布をはぎ合わせます。残り布などを活用し、小物類や室内装飾に応用します。

1 模様を選びます



2種類のうち、お好みの模様を選びます。

2 押えを確かめます

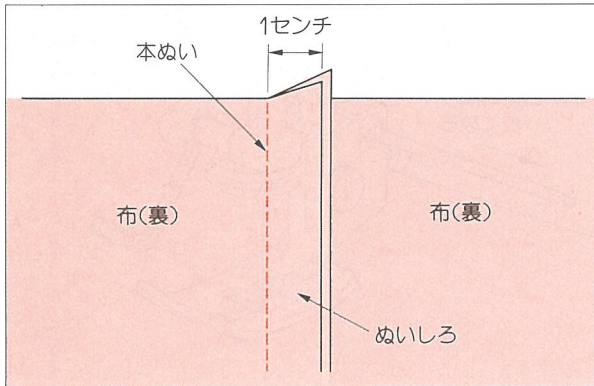


基本押え(A)を使います。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

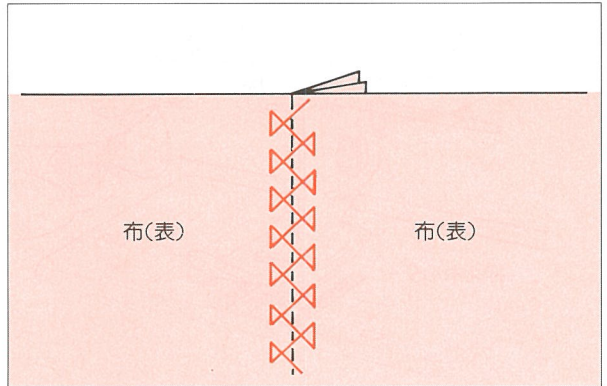
●重ねはぎ

1



2枚の布地を中表に合わせ、本ぬいした後、ぬいしろを片返にします。

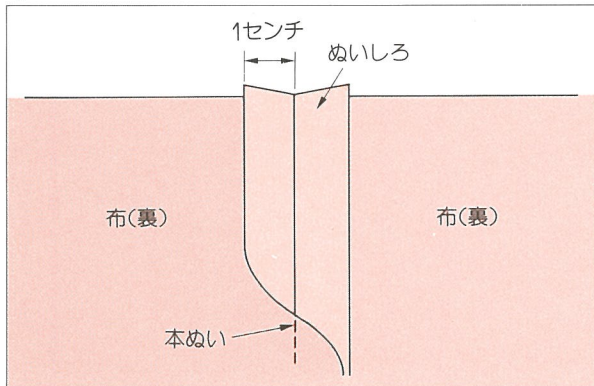
2



両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

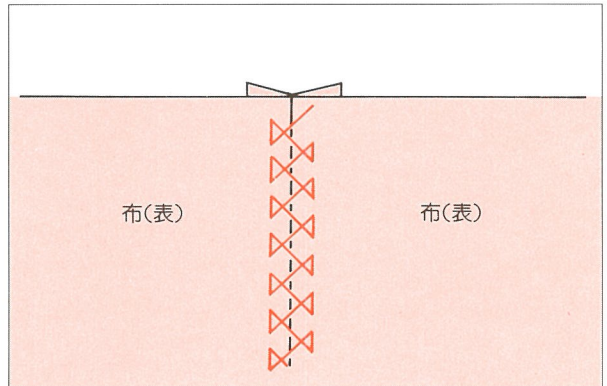
●割りはぎ

1



2枚の布地を中表に合わせ、本ぬいした後、ぬいしろをきれいに割ります。

2



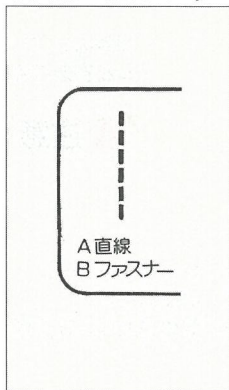
突き合わせになっている表布から両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

ピンタック



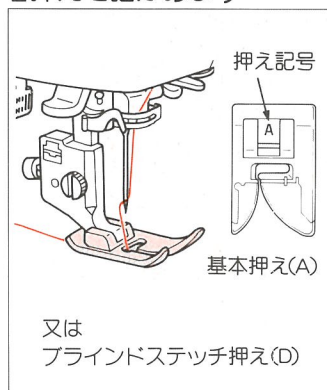
ブラウスの前身頃やエプロンの装飾などに利用します。

1 模様を選びます



電源を入れると自動的に直線が選ばれます。

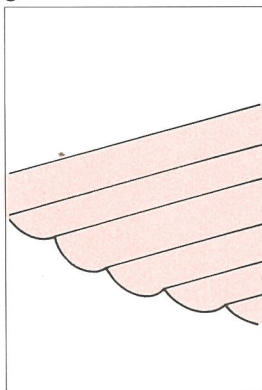
2 押えを確かめます



基本押え(A)またはブラインドステッチ押え(D)を使います。

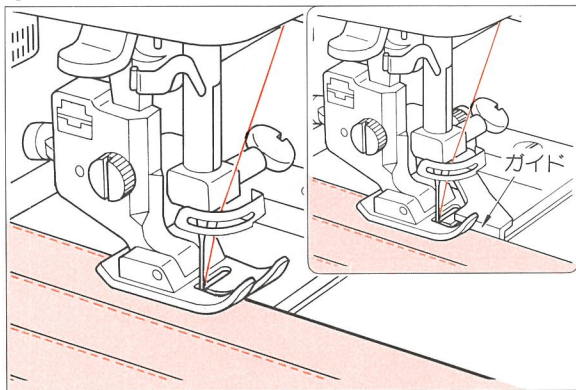
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

3



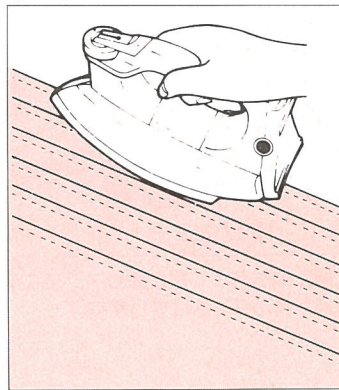
ピンタックの折り山をアイロンで折り整えます。

4



折り山を伸ばさないようにぬいます。(ブラインドステッチ押えのガイドを利用するときれいにできます。)

5

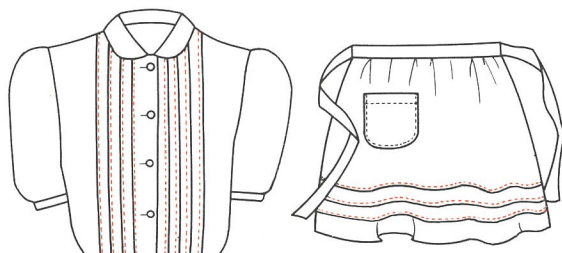


ぬい終わったら片返しにして、アイロンをかけ、整えます。

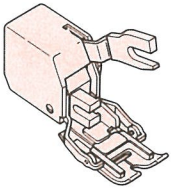
応用例

●ブラウス

●エプロン



布づれ防止に……
上送りアタッチメント



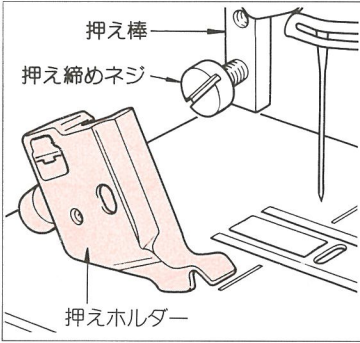
直線ぬい(たて送り)だけにお使い下さい。
※左右送り直線・ジグザグ・大型模様ぬいには使わないでください。



- 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。
- 押えホルダーや上送りアタッチメントの取り付け取り外しには、電源スイッチを切ってください。

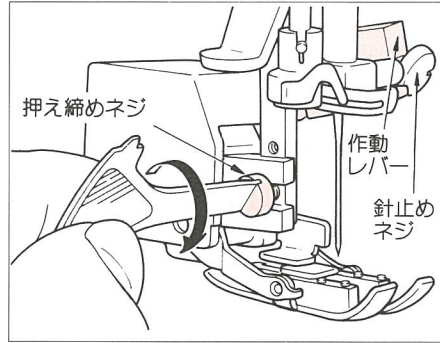
一般にミシンで送りにくい素材（ニット、ジャージー、ビニールクロス、人工皮革、皮など）に使用します。
滑らかな送りで布ズレを防ぎ、きれいなぬい上りになります。

1 押えホルダーをはずします



押え棒を上げて押え締めネジをはずし、押えホルダーをはずします。

2 上送りアタッチメントをとりつけます



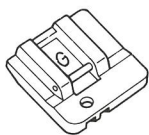
作動レバーの二また部分を針止めに入れ、とりつけ部を押え棒にはめこみ、押え締めネジをしっかりしめます。

- ※ぬい速度はゆっくりから中ぐらいでぬいます。
- ※ニット、ジャージーなど伸縮性のある素材は押え調節レバーを、「よわい」にします。

ホームソーイングをさらに楽しくする……別売品

このミシンのお買い上げ店、または当社サービスセンターでお求めください。

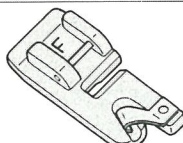
●コンシール押え



コンシールファスナーつけに便利です。

〈ぬい方は23ページ参照〉

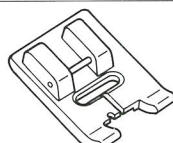
●三つ巻き押え



シャツやブラウスの裾、フリルやスカーフの縁の始末などに使います。

〈ぬい方は24ページ参照〉

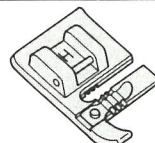
●透明ボタン穴かがり押え



ぬいしろの重なっている部分のボタン穴かがりにご利用ください。

〈ぬい方は25ページ参照〉

●ひもつけ押え



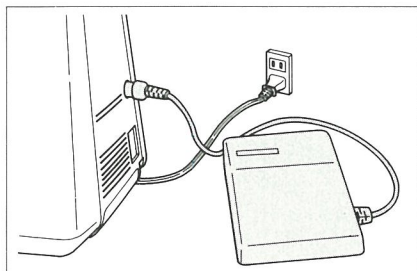
毛糸、ししゅう糸、穴糸などのひもつけに使います。子供服やエプロン、インテリア小物に應用します。

〈ぬい方は26ページ参照〉

●コントローラー

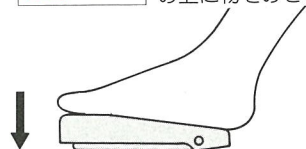
コントローラーを使いますと足の操作でスタート・ストップからスピードコントロールもできます。

※コントローラーを使うときは、スタート・ストップスイッチはストップのみ有効です。スピードコントロールつまみは使えません。



コントローラーのプラグをミシンのコンセントに差しこみます。

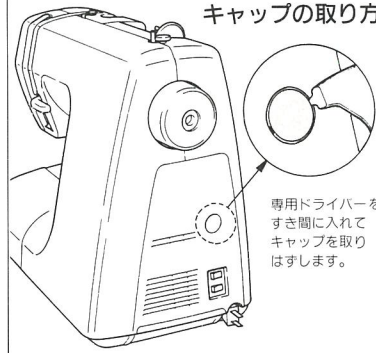
注意 ミシンにセットしてあるコントローラーの上に物をのせないでください。



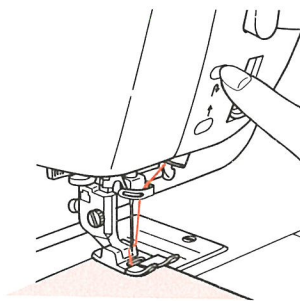
ソケット
取付工事必要!

コントローラーを踏みますと、ミシンがスタートし、速度も調節できます。足をはなしますと、ミシンは止まります。針は布に入ったまま止まります。

コントローラープラグさし込み口 — キャップの取り方

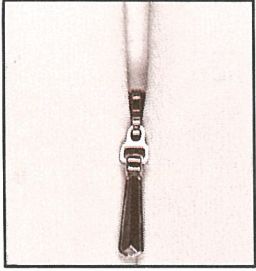


専用ドライバーをすき間に入れてキャップを取りはずします。



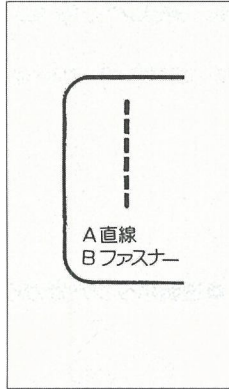
返しぬいをするときは、返しぬいスイッチを押します。

コンシールファスナーつけ



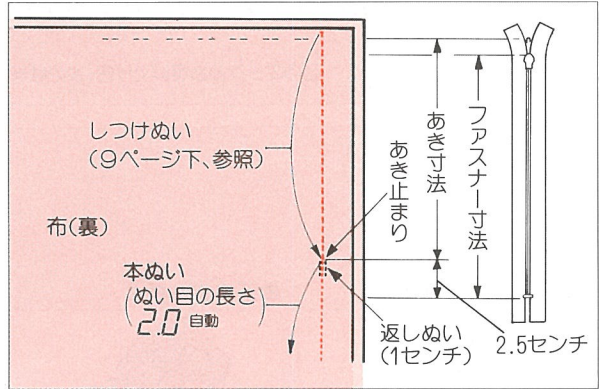
ファスナーのぬい目が布地の裏に出ないで、つき合わせの状態であきの始末ができます。

1 模様を選びます



電源を入れると自動的に直線が選ばれます。

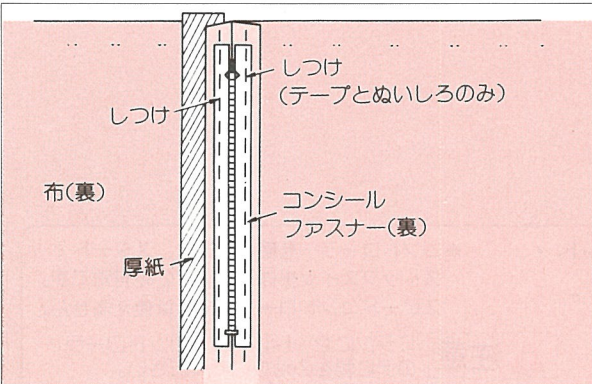
2 ファスナーあき寸法をたしかめ 基本押え(A)でぬいます



布地を中表に合わせて布端よりあき止まりまでしつけぬいでぬい、あき止まりからぬい目を(2.0)に変えて1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。ぬいしろをきちんとわります。

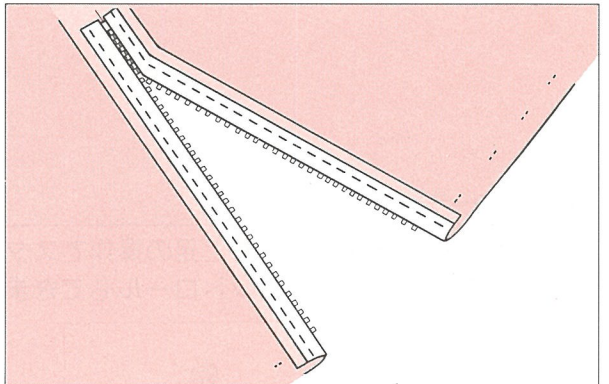
※コンシールファスナーのあき寸法=ファスナー寸法-2.5センチ

3



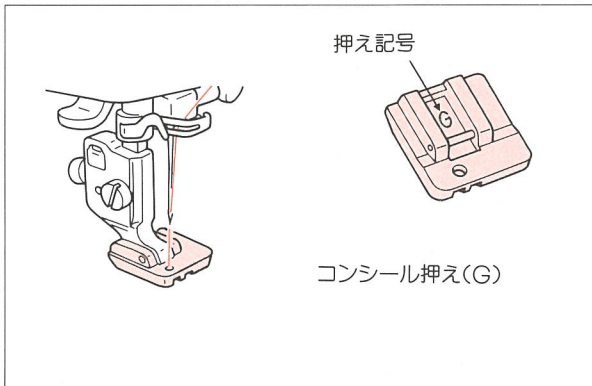
ぬい目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、ぬいしろと表布の間に厚紙を入れ、ぬいしろとファスナーテープを両側とも手のしつけでぬい止めます。しつけが終わったら厚紙をとりま。

4



2図のあき止まりまでぬったしつけぬいをほどき、ファスナーを開きます。

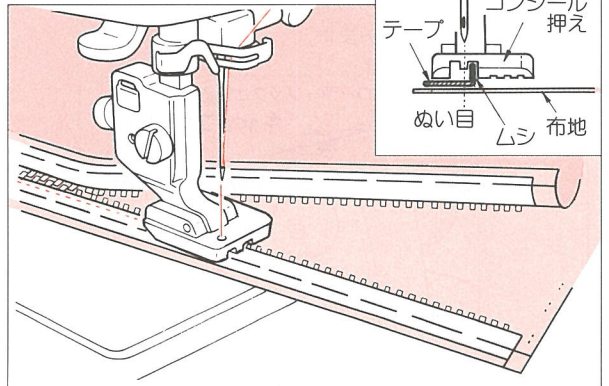
5 コンシール押え(G)をセットします



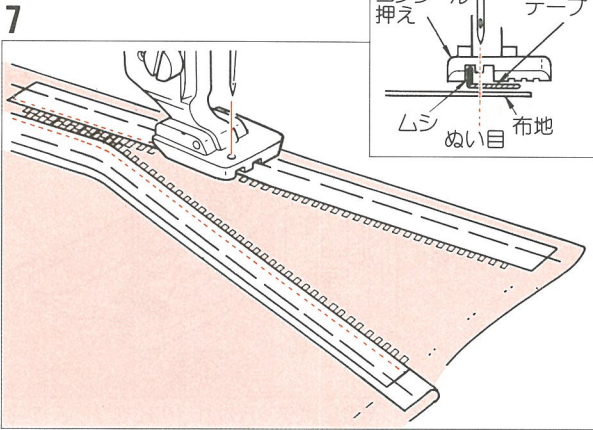
別売のコンシール押え(G)を使います。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

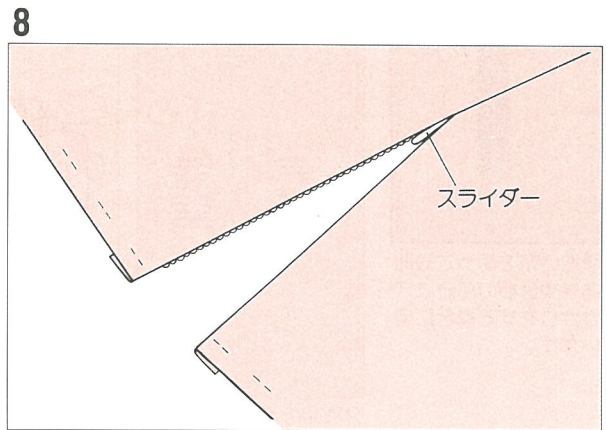
6



一方のぬいしろをファスナーのムシを押えのみぞに合わせ、指でムシを立てるようにして、ムシのきわにあき止まりよりミシンをかけます。

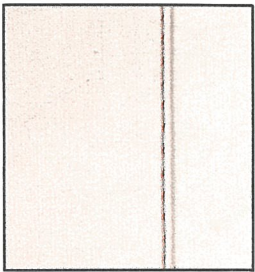


もう一方のぬいしろも同じ方法でぬい合わせます。
 (ファスナーテープのあき止まりから下の部分はぬいしろに
 ぬいつけられずに残ります。)

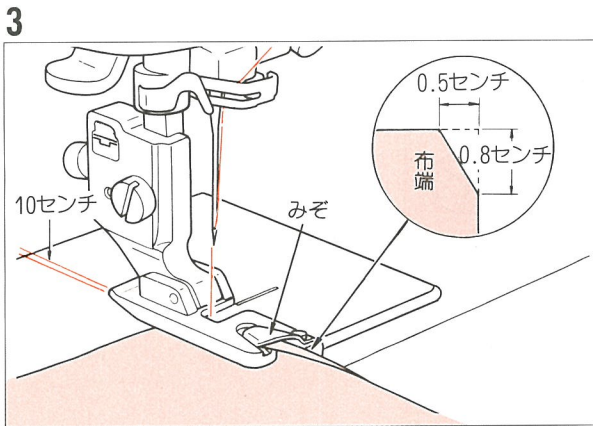


スライダーを中より出し、上に引きあげます。

三つ巻きぬい



布端を三つ折りにしながら
 ぬっていく方法で、シャツ
 やブラウスの裾、フリルや
 ハンカチの縁の始末などに
 使います。



布地を巻きこみやすくするため角を少し切り、押えのうず状のみ
 ぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから針をおろして
 押えをさげます。

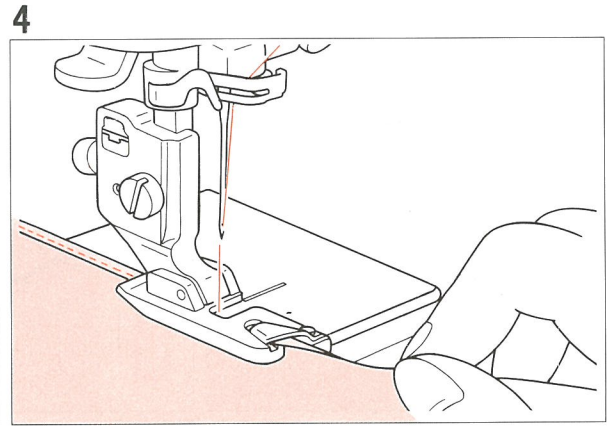
1 模様を選びます

2 三つ巻き押え(F)を
 セットします

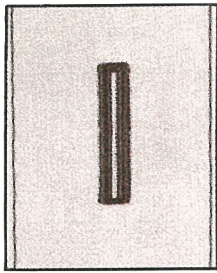
電源を入れると自動的に
 直線が選ばれます。

別売の三つ巻き押え(F)を使います。

注意 押えの交換のときは
 電源スイッチを
 切ってください。

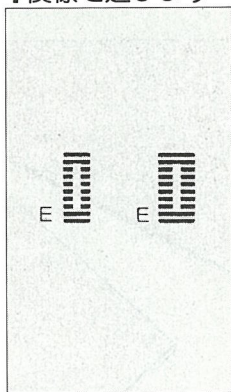


上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3~4回まわし、正しく
 巻きこまれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、
 常に適量がくり入れられるようにしてぬいます。



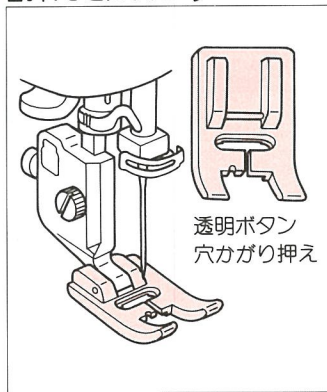
厚地の布を使った短冊あきや台衿の部分に穴かがりをする場合に用います。

1 模様を選びます



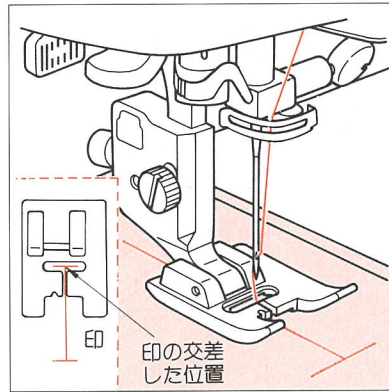
2種類のうち、目的に合った模様を選びます。

2 押えをかえます



別売の透明ボタン穴かがり押えを使います。

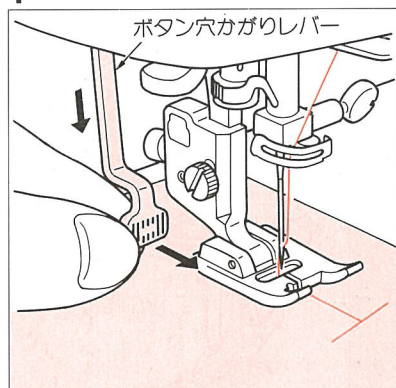
3



布地にボタン穴かがりの印をつけます。針を上げたまま印の交差した位置を押えの針穴の中心に合わせて、押えをさげます。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

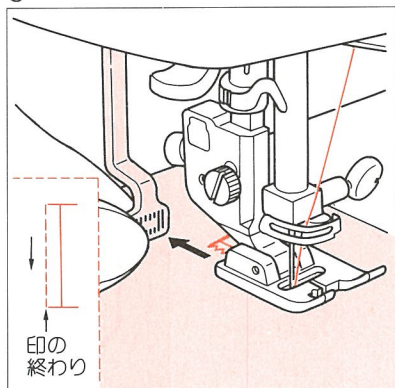
4



ボタン穴かがりレバーをさげて、軽く手前に引き、スタートボタンを押してぬいはじめます。

●左側の直線ぬいが はじまります。

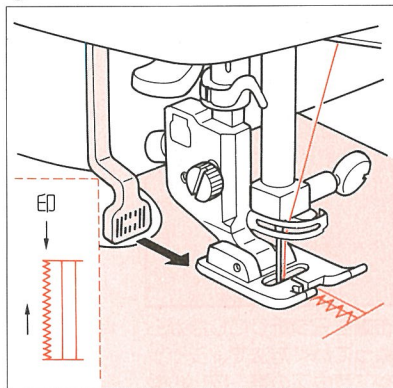
5



印の終わりに針がきたとき、ボタン穴かがりレバーを向こう側に軽く押します。

●バックで左側のぬいが はじまります。

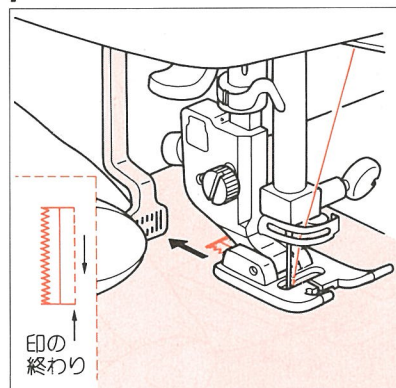
6



最初の印に針がきたとき、レバーを軽く手前に引きます。

●右側の直線ぬいが はじまります。

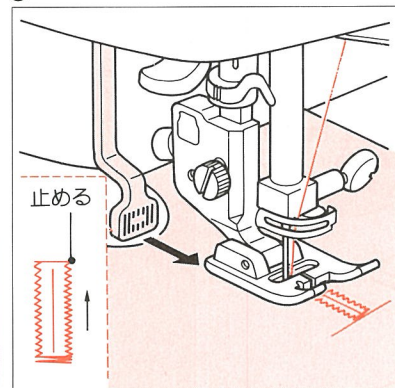
7



印の終わりに針がきたとき、レバーを向こう側に押します。

●手前のカン止めをぬってバックで右側のぬいが はじまります。

8

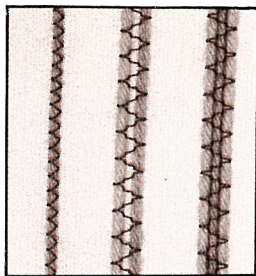


最初の印に針がきたとき、レバーを軽く手前に引くとカン止め、止めぬいをして止まります。

ご注意

1. 布がレバーに触れないようにします。レバーが押されるとカン止めに切替わってしまいます。
2. 失敗したときは、ミシンを止め、模様選択キーをもう一度押しますと最初からぬうことができます。

ひもつけ(コーディング)

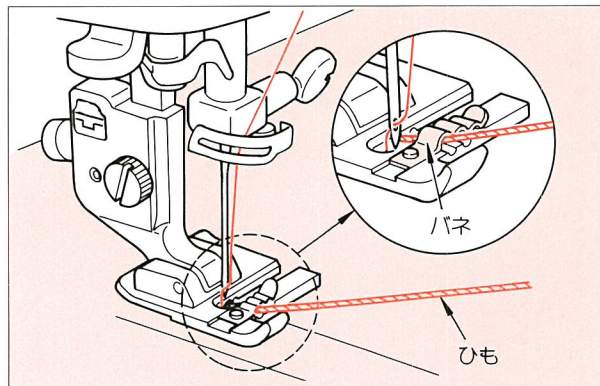


毛糸、ししゅう糸、穴糸などのひもを使い、子供服やエプロン、インテリア小物に応用します。

1本から3本のひもつけができます。

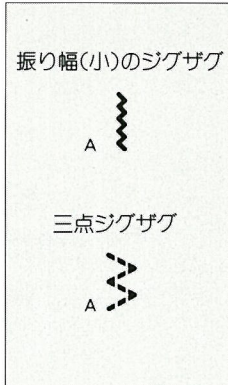
1本つけ

1本の場合は左端にひもを通し、ひもの先端を押えの裏にあるみぞにはめてから押えをさげます。



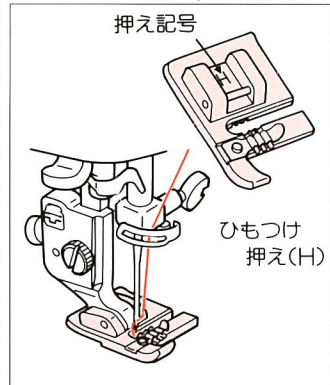
振り幅(小)のジグザグ模様でぬい止めます。ぬい始めとぬい終わりに返しぬいスイッチを押して止めぬいをします。ひもは布地の裏に引き出して結び切ります。

1 模様を選びます



ひもつけ1本のときは振り幅(小)のジグザグ模様を選びます。

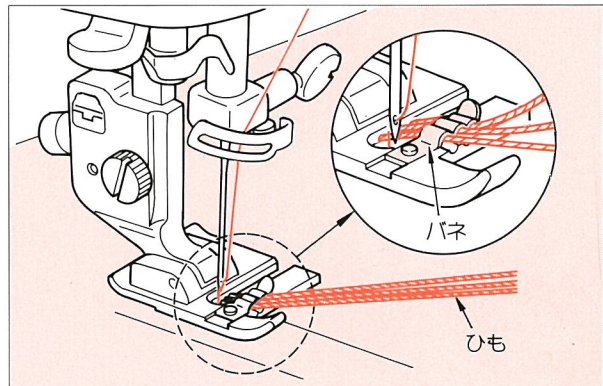
2 ひもつけ押え(H)をセットします



注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

3本つけ

3本の場合は全部にひもを通し、ひもの先端は1本の場合と同じように押えの裏のみぞにはめて押えをさげます。

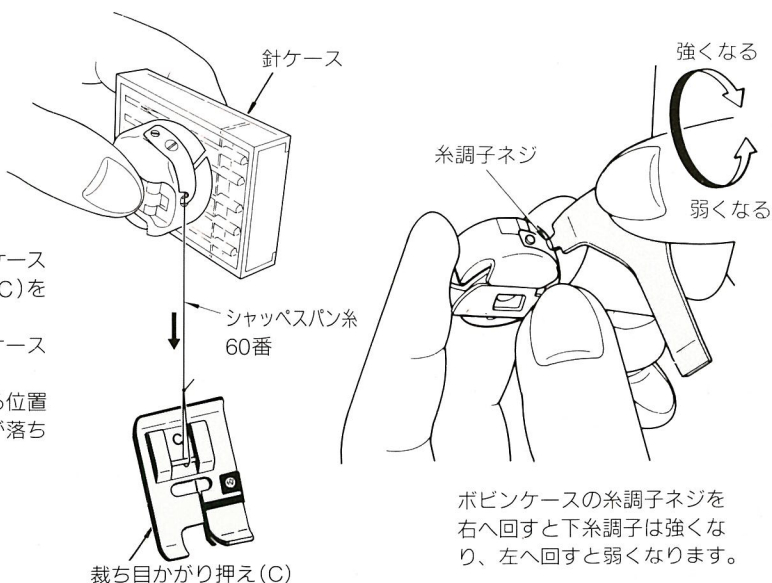


三点ジグザグの模様でぬい止めます。1本の場合と同じように止めぬいをして、ひもを布地の裏に出して結び切ります。※2本つけの場合はひもを押えの両端にセットします。

ホビンケースの調整方法

同梱されているホビンケースの下糸の調子はすでに正しく調整されていますので、調整する必要はありませんが、もし調整を必要とする場合は、右の方法で行ってください。

- (1) シャップスパン糸60番をホビンケースにセットして裁ち目かがり押え(C)を糸のはしにつけます。
- (2) 針ケースなど平らな板にホビンケースのボビン側を押しつけます。
- (3) ホビンケースの真横から糸が出る位置にして軽くふり、少しずつ押えが落ちるのを目安とします。



ホビンケースの糸調子ネジを右へ回すと下糸調子は強くなり、左へ回すと弱くなります。

裁ち目かがり押え(C)

JUKI

JUKI 株式会社

〒182 東京都調布市国領町8-2-1

☎ 03-3480-5655

